

ル 4  
3218  
14

後十世 東嶽山忍圖

松平 不昧



戸名所圖會卷之五  
玉衡之部目録

湯島聖堂  
湯島天満宮  
湯島神社

妻戀心神社  
根出院

中島辨財天  
東叡山寛永寺

三橋  
三橋 忍川

谷中瑞林寺  
螢澤 宗林寺

七面大明神  
青雲寺

神田明神社  
雲雲寺

湯島神社  
湯島天満宮

同祭禮の圖  
大元堂

養福寺  
日暮里

威應寺  
道灌山

淨光寺  
人麻呂御

本以寺  
番神社



昭和九年  
七月六日  
購末

根津権現社 法外権現社  
二條法皇 二條法皇御宇  
妙林寺 田中法皇御宇  
丸山浄土 比叡天皇御宇

同赤不動堂 赤不動堂  
駒込吉祥寺 駒込吉祥寺  
神明宮 神明宮  
富士沙洞宮 富士沙洞宮  
八幡宮 八幡宮

六阿彌陀二番目 六阿彌陀二番目  
田畑子樂寺 田畑子樂寺  
深井西福寺 深井西福寺  
平塚明神社 平塚明神社  
同合戦の巻 同合戦の巻  
西ヶ谷安量寺 西ヶ谷安量寺

白鬚明神社 白鬚明神社  
昌林寺 昌林寺  
平塚城跡 平塚城跡  
同新酒亭の巻 同新酒亭の巻  
同東由の巻 同東由の巻  
大進物上覧の地 大進物上覧の地

王子権現土 王子権現土  
音武川 音武川  
王子稻荷社 王子稻荷社  
装束富衣裳櫃 装束富衣裳櫃  
松橋安殿天 松橋安殿天  
稻付静徳寺 稻付静徳寺

七尾祭礼の巻 七尾祭礼の巻  
金輪寺 金輪寺  
十八講の巻 十八講の巻  
泉流湫 泉流湫  
除夜狐火の巻 除夜狐火の巻

金別寺 金別寺  
赤不動堂 赤不動堂  
赤不動堂 赤不動堂  
赤不動堂 赤不動堂  
赤不動堂 赤不動堂

川口普光寺 川口普光寺  
渦田の圖 渦田の圖  
豊島の驛 豊島の驛  
新福寺 新福寺

梶原塚 梶原塚  
清光寺 清光寺  
豊源康家清光之墓 豊源康家清光之墓

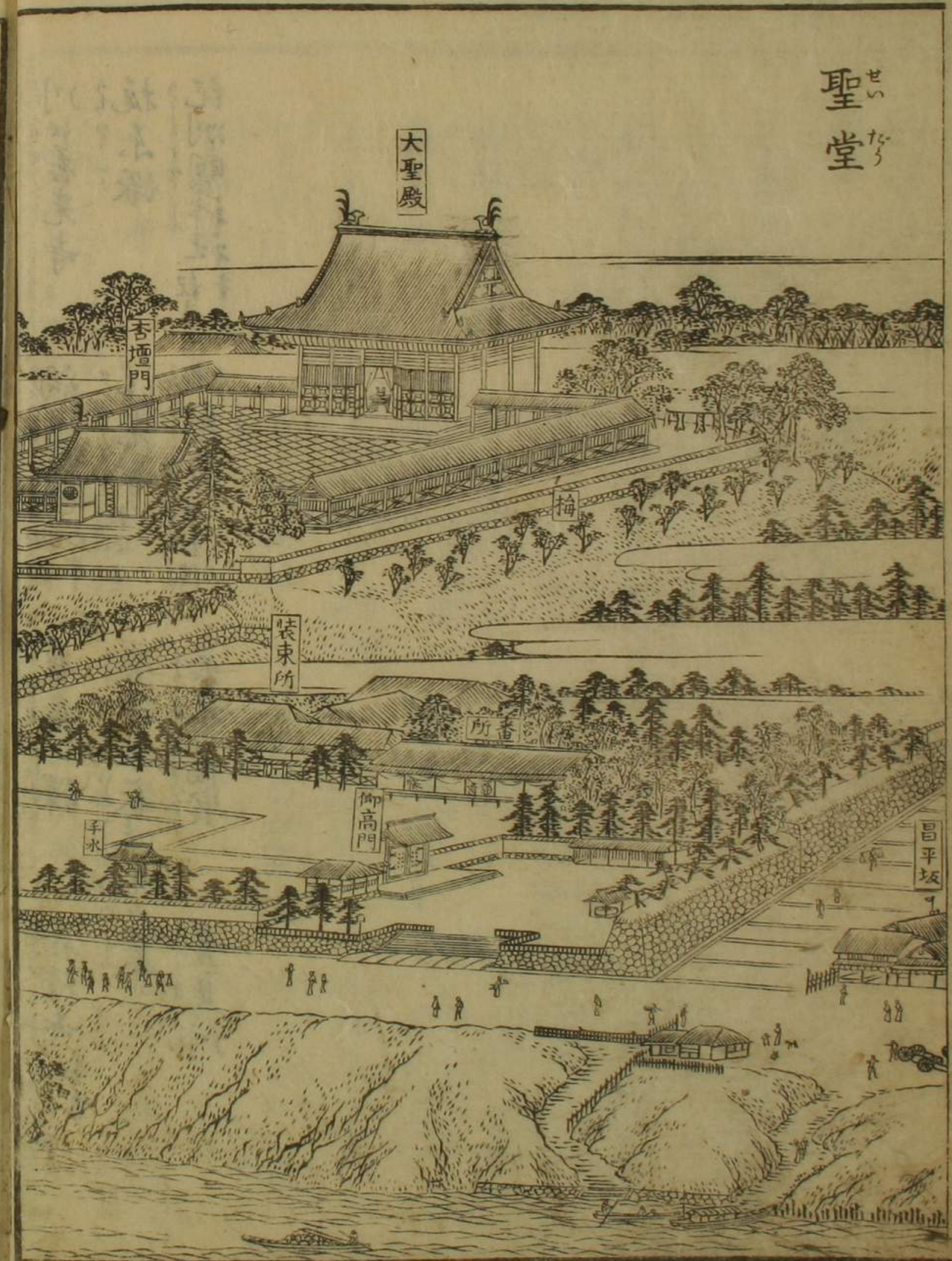
紀州明神社 紀州明神社  
地蔵堂 地蔵堂  
若文八幡宮 若文八幡宮  
豊島川 豊島川

川口普光寺 川口普光寺  
渦田の圖 渦田の圖  
豊島の驛 豊島の驛  
新福寺 新福寺

梶原塚 梶原塚  
清光寺 清光寺  
豊源康家清光之墓 豊源康家清光之墓

紀州明神社 紀州明神社  
地蔵堂 地蔵堂  
若文八幡宮 若文八幡宮  
豊島川 豊島川

聖堂



新葉集 釋奠

かゝ人志

むらゝの

ふき坂

うのゝまて

あふけい

まね

煉の夜れ

月

妙光寺  
内大臣

圓滿寺



此邊 同学所

聖堂

聖堂 昌平橋の外湯島あり

本殿

文宣王

右顔子 曾子 孟子

額

大成殿

元禄大樹御筆

廊門

杏壇

唐門

人徳門

惣門

高仰

持明院基輔御筆

寛永十年尾呂亞相公

義直卿

林家別荘の地

今東嶽山あり所の山王の社の

あり一廈を経営あり

聖像あり

顔曾思孟の像を置て先聖殿と號す

其後田禄の災は罹り遂に元禄四年

台命ありて今の北小遷させられ御造営有

しより已降春秋二度の釋奠息ふことなり

品ありていと嚴重に執行の儒宗林奈酒世

實は東都の二盛典あり

君子の画像を掛らる

公事根元曰此釋奠文武天皇大寶元年二月始

幣以奠て先師を禮せとあり此故に釋奠といふあり

幸して仲尼ありひよ七十二弟子を祠とみえたり

顔回といひひの周公を先聖と云孔子を先師といひ

あつたれ先聖先師と孔子顔回と申さる

て文宣王と申す

新葉集

神田大明神社 聖堂の北あり唯一あり

祭神 大己貴命

平親王将門靈

二坐

社傳曰人皇四十五代聖武天皇の御宇天平二年

其舊に神田橋あり

教坊東園遊化の砌あり

むむび芝寄道場と號す

神田明神社

暮景集  
深夜の帰風と  
夕べの社  
夕べの社  
夕べの社

鳴はれて  
夕べの社  
夕べの社

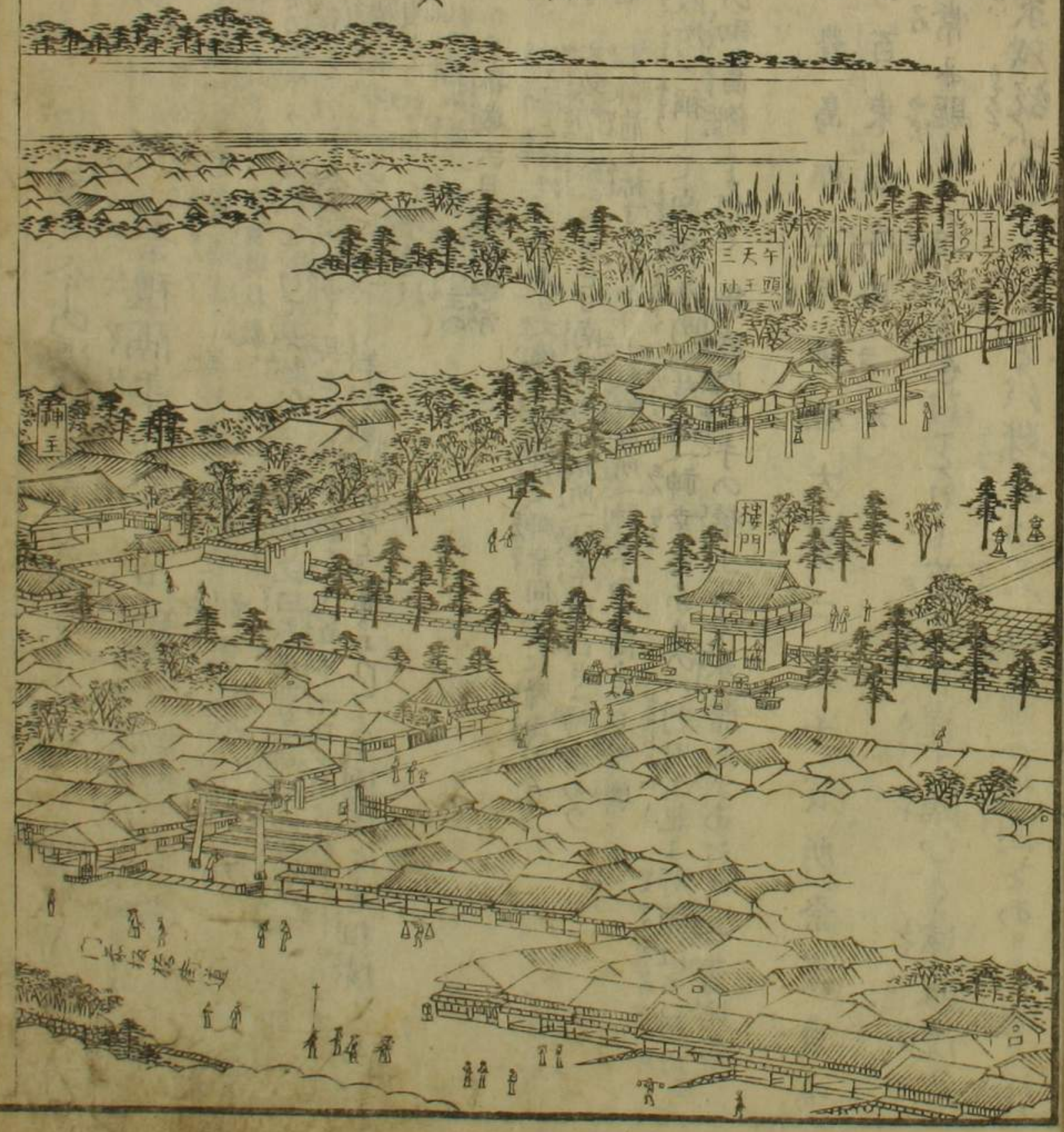


裏門

はまの  
夕べの社

夜半  
夕べの社

夕田  
持資







神田明神

祭禮

隔年九月十五日

執行小氏子の

町くんと練物車樂

出陣中

大江山凱陣

牛若丸奥刃下

朝鮮人末朝の

あそび孫よ遠近に聞て

其名高く

最

美観

たる

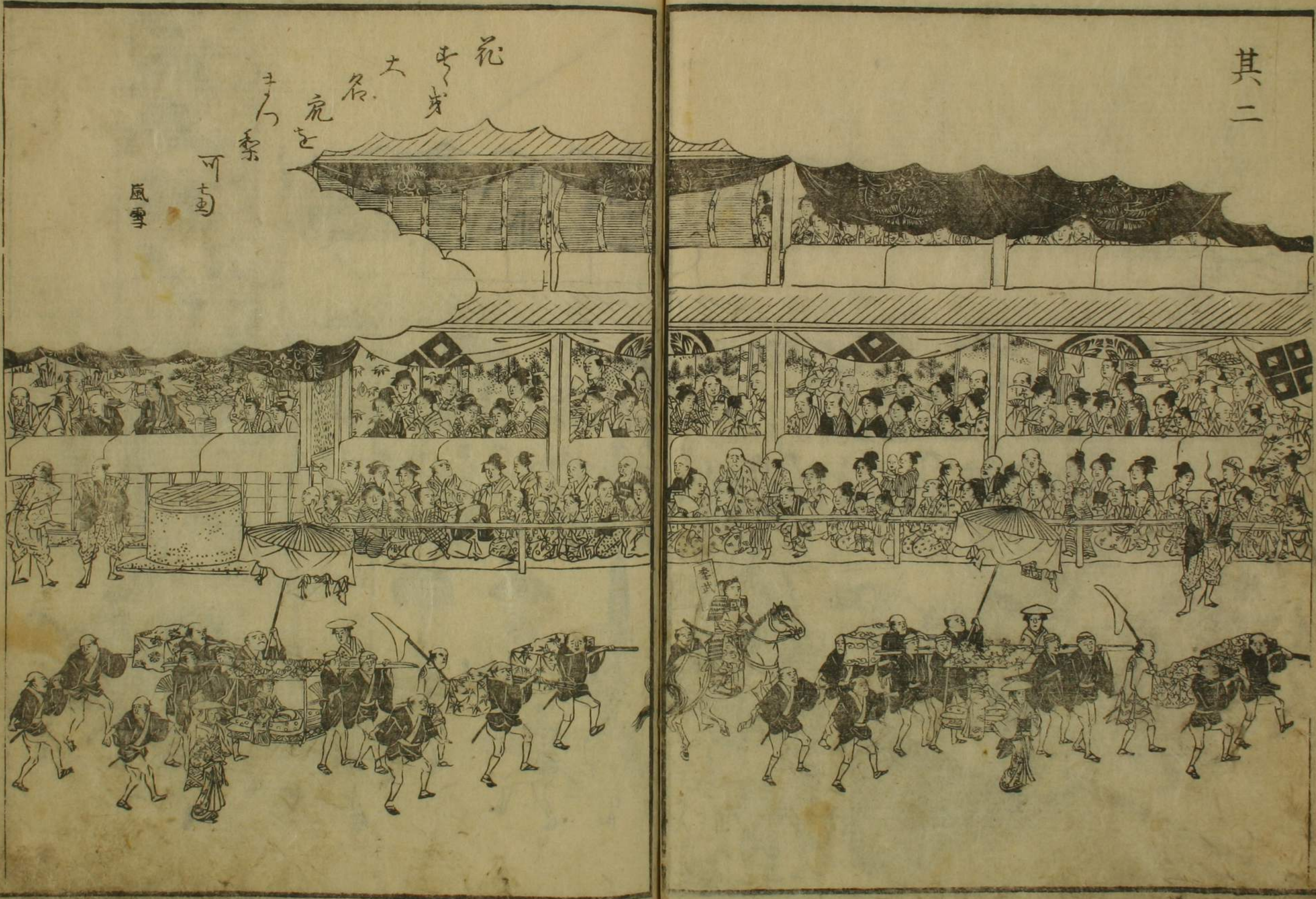
大江山凱陣

東江源辨書

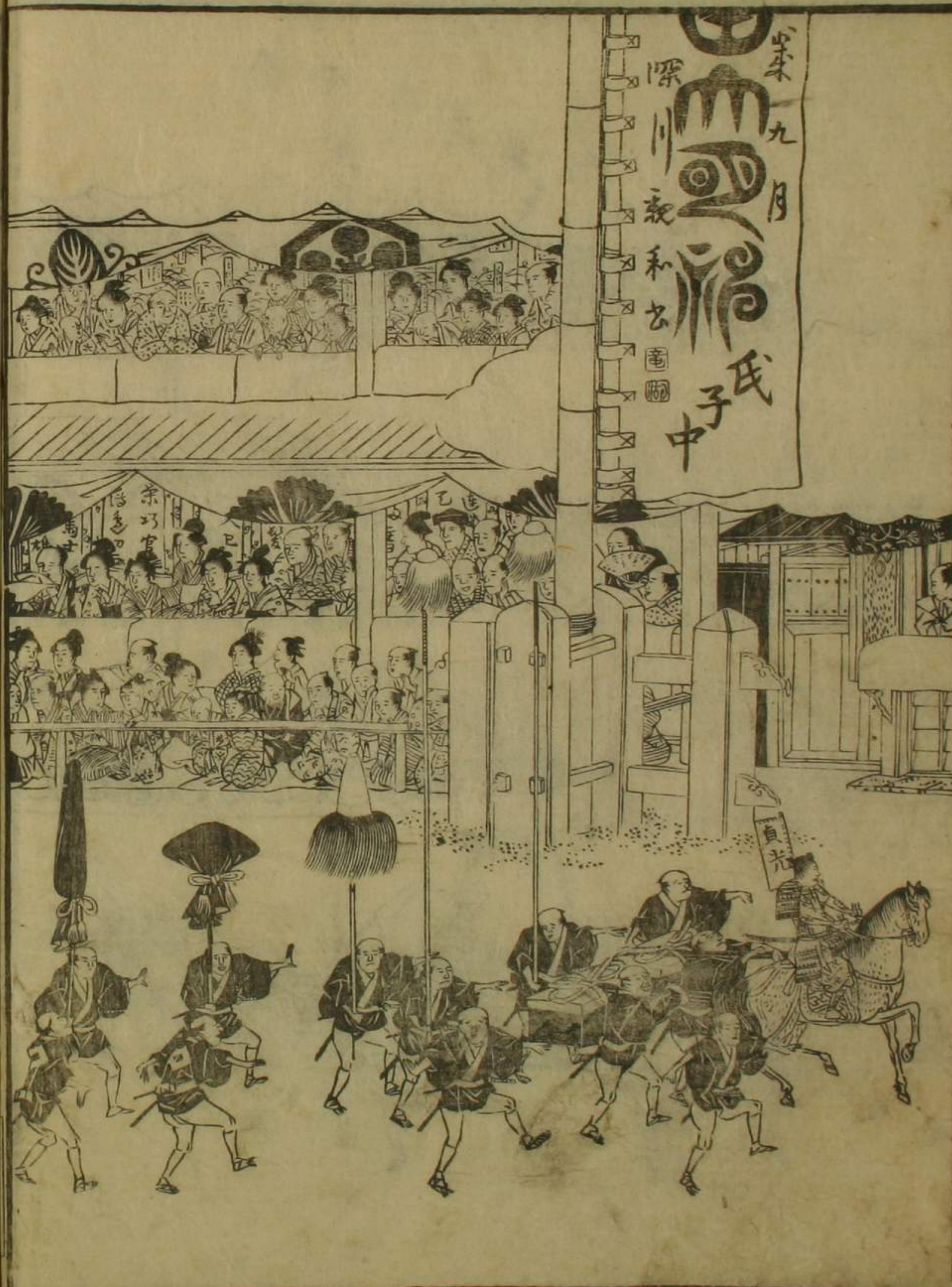


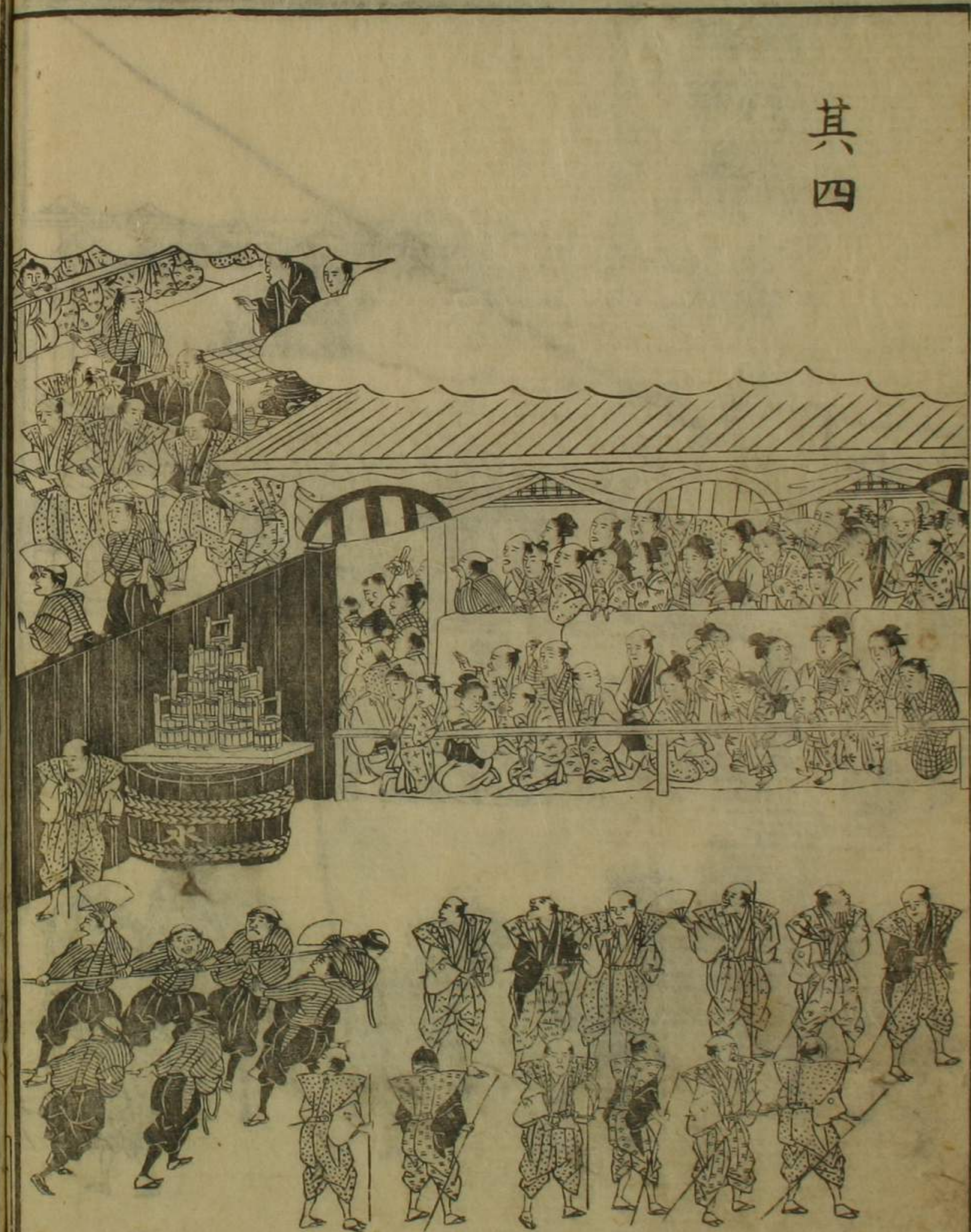


花  
考  
大  
名  
虎  
季  
可  
嵐  
雪



其三





其四

江城湯島の地に至り彼佛の教を随ひ諸人れ求に應じて無量を願ふ  
 成就し大に靈驗をありり同七年所室宮へ参るは行法の嚴重なるを  
 所感あつて高野山光臺院の住持職に任ぜられ又天和二年七月十三日  
 参内屯頭中将隆真卿の傳奏ありて光臺院住持職勅し應じ國家安  
 全寶祚延長と祈奉るべき旨倫旨賜ふ祖先の忠義に仍て名宗の又元  
 祿四年志願によろく光臺院を辭して江戸に赴き本郷三組町に住せり  
 其頃

大樹 常憲公とて浄光院殿須山女を以り御祈禱を仰附り宝永  
 六年上京し此時昇殿を許され同七年江戸湯島の地に梵刹を建  
 萬昌山圓滿寺と號し  
 大樹 文昭公の所志願より仍く奉多彈正少弼忠晴奉行たり則上人を以  
 て當寺の開山とし享保三年六月七日化縁の誓盡く終り春秋九十五歳  
 歿して遷化せり以上開山傳の  
 略と擧

圓滿寺  
 俗に本食寺  
 とす



寶林山靈雲寺

大悲心院と號以圓満寺の小れ方にあり關東真言

律の惣奉寺ありて覺彦比丘の開基なり

灌頂堂 西界大日如來と安置以

大元堂 灌頂堂のうしろ方丈にあり奉尊大元明王の像ハ元祿大樹の序筆ハ

朝の後美和二年奏聞を経て小栗栖の常曉の器を稱して此秘法と稱し常曉歸

正月起八日至十四日 喜式玄蕃寮式日凡大元帥法毎年

鐘樓 覺彦和尚自銘と作る

寶林山靈雲寺鑄鐘銘並序

武都北郊右一勝地四星可坐而算管祠良聳神鬼常作  
擁衛士峯坤峙靈祇遙為鎮護東嶽天澤後聯鐘梵  
互和葩城聖堂前岫旭曛相映實武野之甲區者也  
從四位下柳羽州源保明者幕府之侍臣也天性  
篤佛之忠孝是勢在公之暇嚮志眞乘常歎世季俗漓  
奉佛之從不拘戒以故象教從設無益因啓  
府堅請伽藍之地以囑貧道遂使今茲仲秋之二十

二大將軍下旨賜許斯攸予乃夷榛莽卒初營構遐通

競趨緇白佐助自閏八初二始斧以孟冬之半土

木之績倏示告成從四位下牧野備後刺史源成貞

者時之復令工匠也締造其樓今月初四樓鐘偕就以惟

鉅鐘之興起也者本是樓喜捨家賞命于鳧氏鎔成

斯寺之興賜而二公醇信之所致也予欲使後生有

大將軍之欽遵佛制力荷教法上以禱台運無疆下

感于茲民壽福也乃為銘曰帥資地實比布金

以增士庭山號寶林元帥資地棟宇成森

城北福庭山號寶林元帥資地棟宇成森

作夫四集役工日臨彌歷七旬修弁合程

牧野備公為時股肱命聖畢萃龍鬼熱醒

架樓突兀效響鏗鉤迷夫天真何有垠埒

聲雖本有乍起乍滅法音遍益

圓性融相誰縛誰泄

元祿四辛未年孟冬

地藏堂 本堂の左にあり 奉尊地藏菩薩の法あり 左右の脇檀に弘法大師あり

み覺彦比丘の兩像と安置以

關山諱ハ淨嚴字ハ覺彦妙極と號以河碕錦部郡小西見村の産ハ

國氏母

氏あり 寛永十六年己卯十一月廿三日に生ふ四葉ありて普門品尊勝大  
陀羅尼誦詠奇標穎悟夙因の發する取之凡耳目の歴る取終に遺忘はる  
事あり衆人是を神童と稱す慶安元年戊子高野山檢校法印雲雪法禮  
して薙染す昔に年十歳朝參暮詣倦事なく紀昶亞相公 頼宣卿一交  
見たすひく深く是は器ありと真みされ方外千里の駒なりとの言ふ  
遂に真言の諸流に秘奥を究む又餘暇あふれば孔老をひ諸子百家  
歴史等涉ぶるとは俗あり常は法戦の場あり臨に向ふ取敵あり貞享  
甲子冬錫を關左に飛に其曉瑞雲ありて東を指其色赤黄ありて長さ  
と數十丈あり和尚の法化將あり東方に振るとするの兆あり一度東都  
ありてより法教に城の下に震ふ仍る和尚の道香公慕ひ牙子を禮は  
設厚くされは遇はる輩をこれに元禄四年  
大將軍 常憲公 召見し多以普門品を講せむ雄辨泉の流ありて聴者  
欣然とて善と稱は遂に城小くして地を賜ひ梵刹に經始はすといふ

佛殿僧房香厨門廓覺と連ね巍然として一精藍をなれ號く靈雲寺  
といふ是往年の瑞し依りたり遂に密檀を建秘法を行講筵を鋪大密  
教を唱ふふにをんと諸名匠衣を摺てあり至同五年壬申六月大元帥  
の大法を修し國家昇平を祈ふされより以後毎歲三神通月七日後  
法を教と成永規と成翌年多麻郡の戸若子を割て香積に充開東真  
言律の僧統となしたまふ又乙亥は夏  
大將軍 常憲公 齋戒し多以大元帥金剛の像と畫き奉尊に  
下し賜ふ 今大元堂に 同十年丁丑僧俗の請は依り曼陀羅を因く檀  
場に入者九万人あり幾し 隔年灌頂を行ふ 既に元禄十五年壬午六月廿七日  
諸徒召遺誠懇懃なり我今法界三昧入といひて恬然とて順化は  
世壽六十四僧臘二十七時は顔四十許色相怡悦とて平生は勝る師常小  
弘通を以て己が仕とて受取の財帛を一一貯えば又みまらに費さば佛像  
を造り聖教を索め堂塔を構貧窮を濟ふ茶後經論を講説を教と二百



大悲心院  
 花松  
 見まろ  
 灌頂池  
 山堂  
 さくら  
 其角

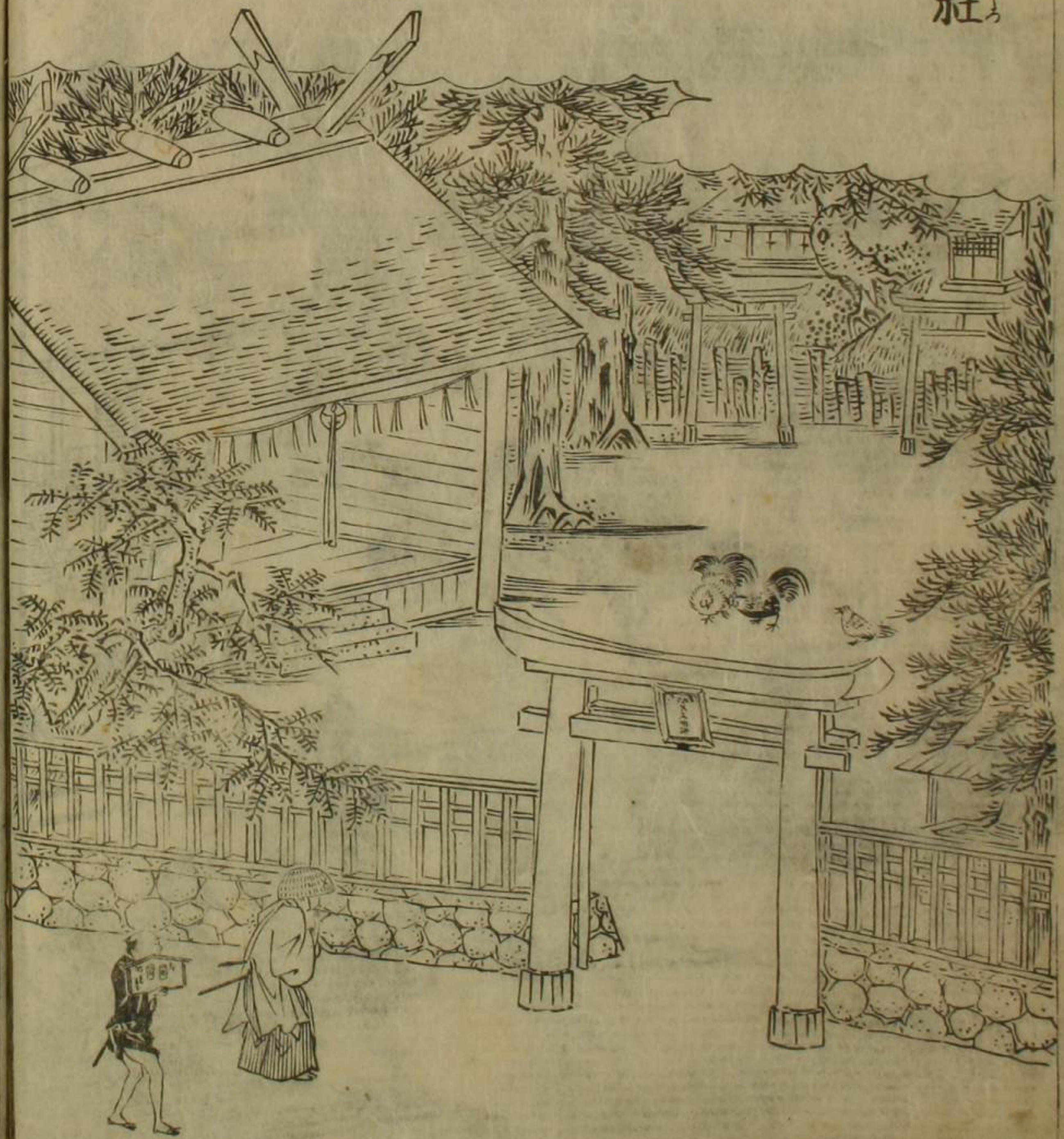


靈雲寺  
 天元堂  
 灌頂堂  
 方丈

鐘樓

惣門

妻戀明神社



三十六會始二十席祕軌と授ふこと五回著述を於野の書三百卷余度を  
 於處の僧尼四百三十六人具足戒を受ふ者十有三人阿耨梨と得る者二百六  
 十八人受明灌頂は受る者千六百三十一人菩薩戒を受ふ者一萬五  
 千人其餘の法化の奉て數ふべし往哲のいさゝ發せしを發し先賢  
 名明々ならずばあはれは法化洋々として天下に彌布し王公と  
 下愚夫蠢婦に至る迄敬仰せむといふことあり今古のあはれなる所  
 實に總持復古の師なり 以上當寺廬山傳の要を摘むるに記す  
 妻戀大明神社 妻戀坂の上にあり万治年中回祿ありて後今の妻戀臺  
 にお遷らせり

祭神 第一殿 倉稻魂神 第二殿 日本武尊 第三殿 弟橘媛命  
 社傳曰當社を往昔日本武尊東征の頃行宮の地ありと云  
按に日本紀に日本武尊東夷征伐の時妃弟橘媛海水に入て野國碓日山腹に  
 登り東南の方と望たまひ五戸墻者耶と宣ふ見えたり聞て考ふに此地も東  
 征の時行宮の地ありと云彼尊と直奉り妻戀臺慕ひたまふの意を取て直り



妻戀明神と号しカ多し今稻荷明神をりつと社の號よ  
稱せられたりえとをそつらるる後世合祭せしかつちり

往昔社地も妻戀墓の下にありて境内をゆるる廣くりに教度  
忠兵火小罹り大に荒廢よきし比繞り社の形をりて残せり時よ天正  
年中

神君當社よ祈願の事ありて新に二丁四方の社地を賜ふ又寛永五年

台命みよつと

神君の御像を別社に鎮座さす先後ふ  
今稻荷の社に鎮座を奉るとり

湯島天満宮 妻戀明神の小れ方あり右田道灌江戸の静勝軒あり頃

文明十年 夢中に菅仲よ謁見を翌朝外よ菅丞相親筆の西像を携來る

者あり乃爰中津を所の尊容み彷彿せり以て直に城外の小に祠堂を

營彼神影と安置し且梅樹數百株を栽美田等を附て即當社是あり

以上諸社一覽江戸名所記等の書よ出るとりども誤りし勘町平河天神に  
菅丞相直筆の西像と稱せりものありて之に當社に此點あることあり其論  
あはれとて定

北国記の事

武藏野の遠望と懸たふに寒村の道やう野梅盛み薫ばされり  
小笠の所神と聞えなれり

忘るる東風吹むと之を遠く志あつ神を梅がみ 荒惠

湯島神社 土人戸隠明神と稱す奉社の後れ方あり則地主の神あり

風土記曰豊島郡湯島神社雄略天皇御宇二年癸巳

天澤山麟祥院 同所北の方よりあり臨濟宗江戸四箇寺の一なり

恩山天澤寺と稱せり春日局の奉尊の釋迦如來円山の渭川劉和尚

法号を取ら麟祥院とあり春日局あり 三代大將軍の御乳母人齋藤利三の

京師花園妙心寺 奉願る春日局あり 三代大將軍の御乳母人齋藤利三の

寺傳曰寛永元年甲子 二代大將軍の 命みよつて當寺を春日局

を菩提所とて且其殿閣をあらに移し 天和二年回祿を其以前の襖今十八

等皆雲谷 同五年 三代大將軍 不豫ありせられし局自ら

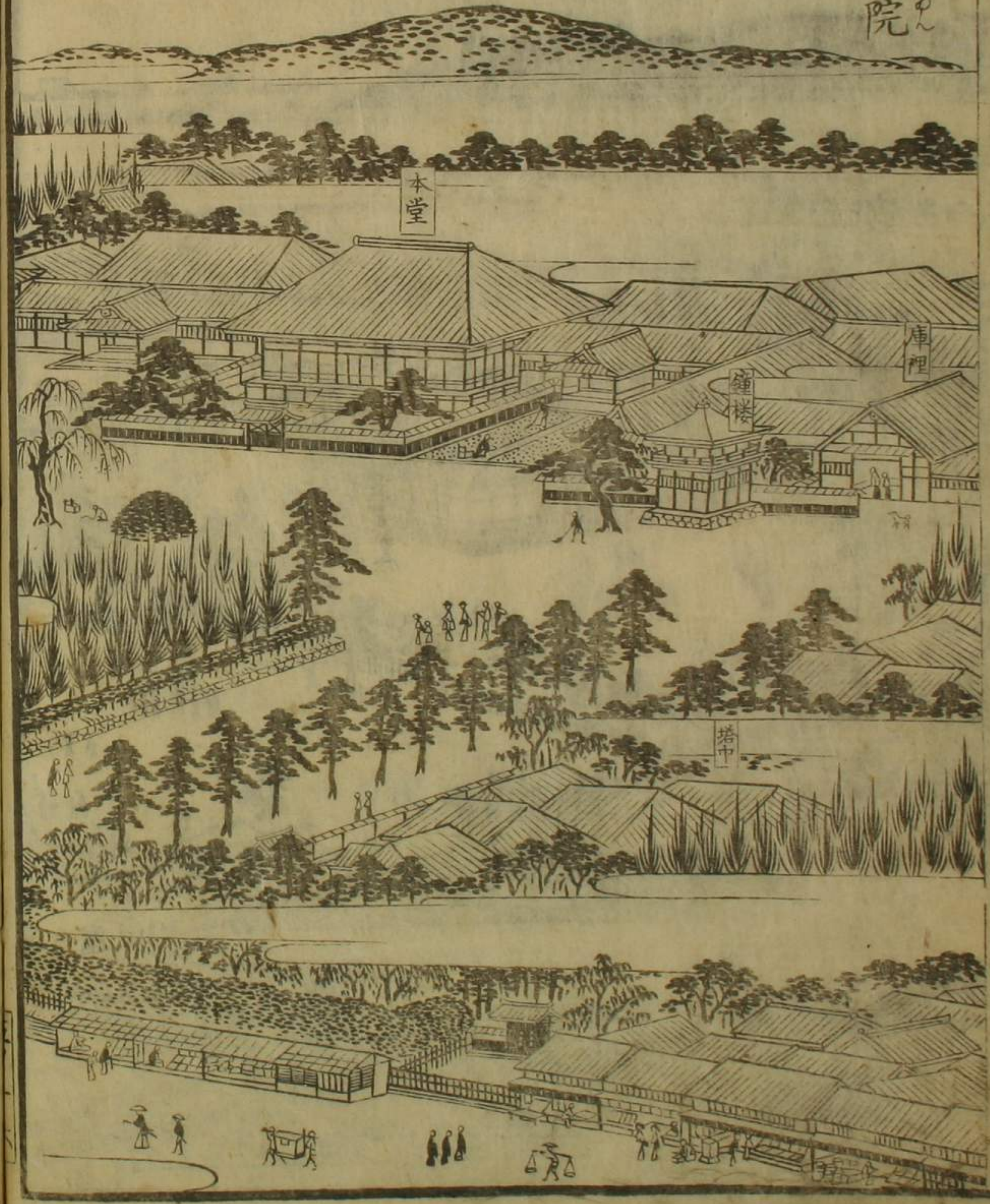
東照大権現の 神前よ詣りて禱て曰妾が身不浄ありとてとも苛も乳

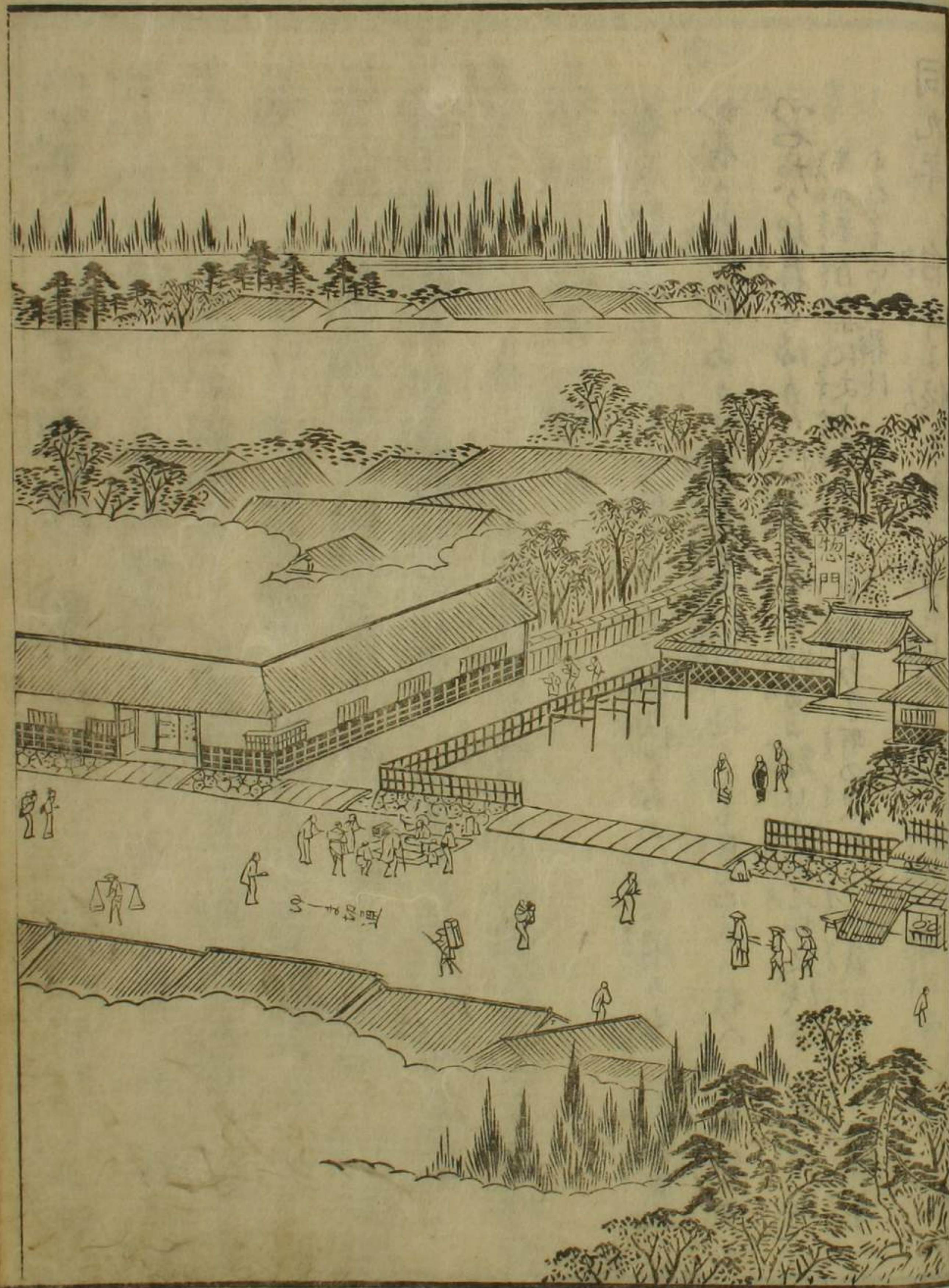


以屋  
 多うん  
 きまの  
 めくみの  
 かあろ山  
 よもい  
 朝日れ  
 光る  
 そんは  
 鳥丸光廣卿



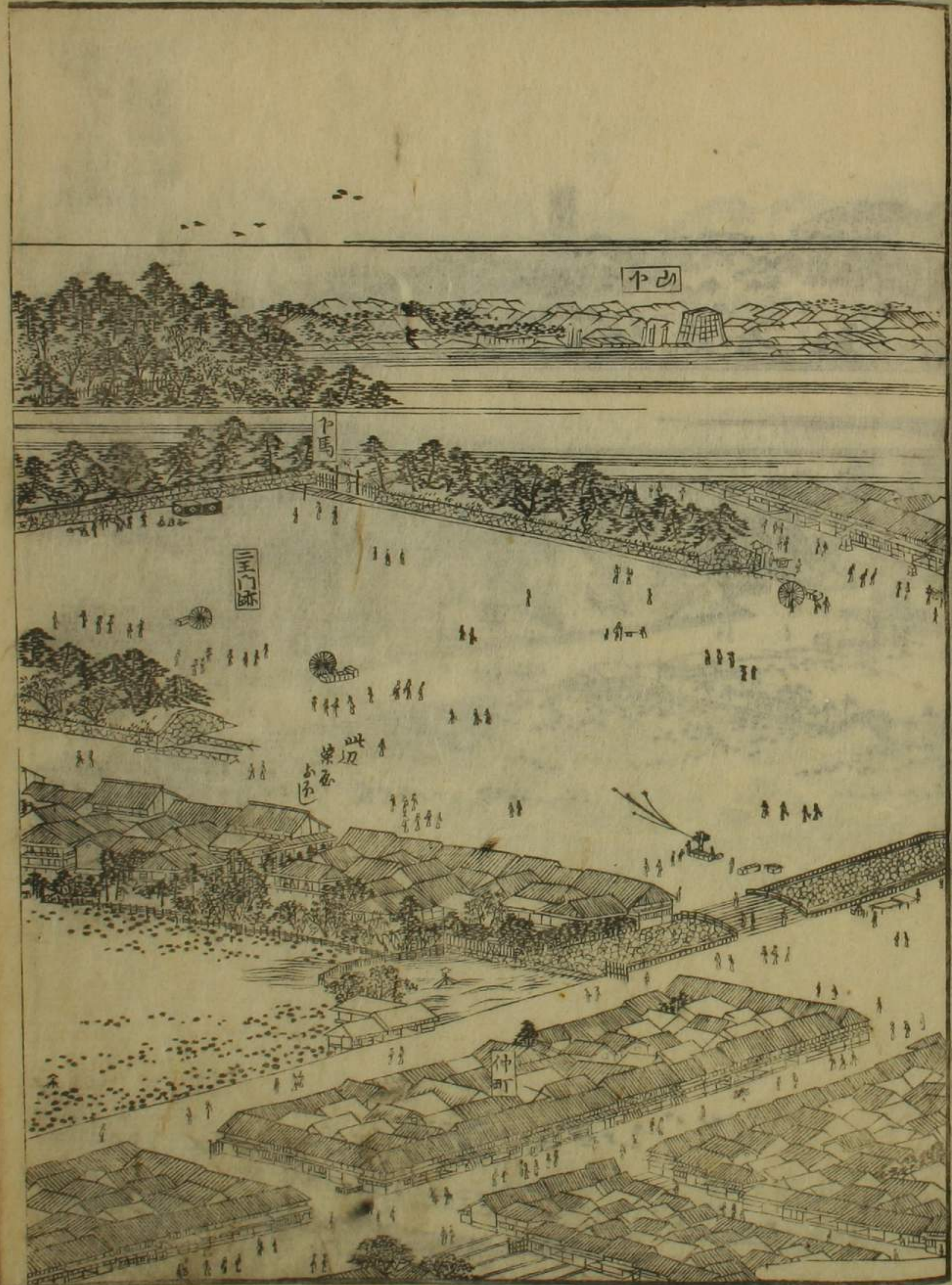
麟祥院  
 りんしょういん



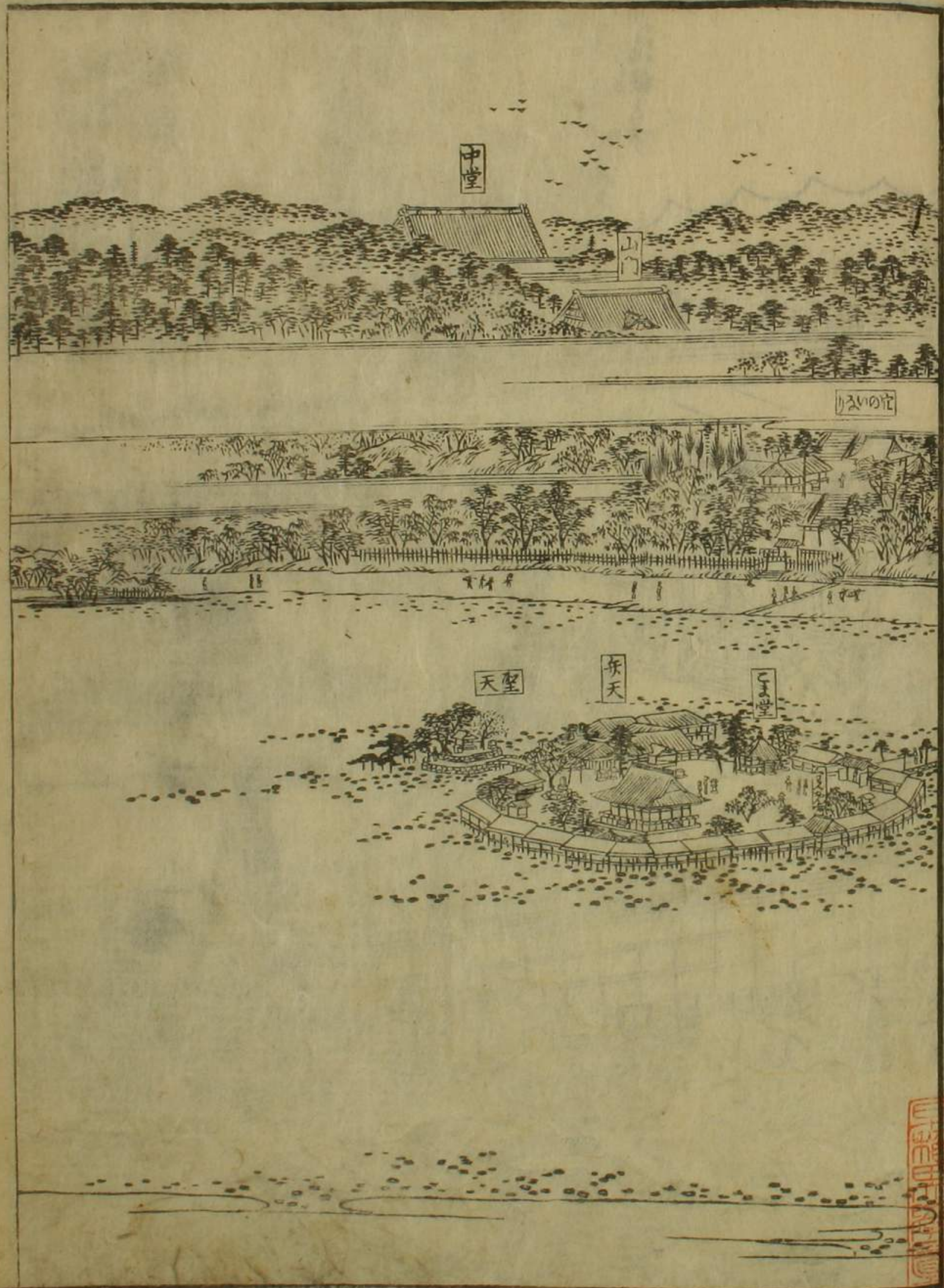








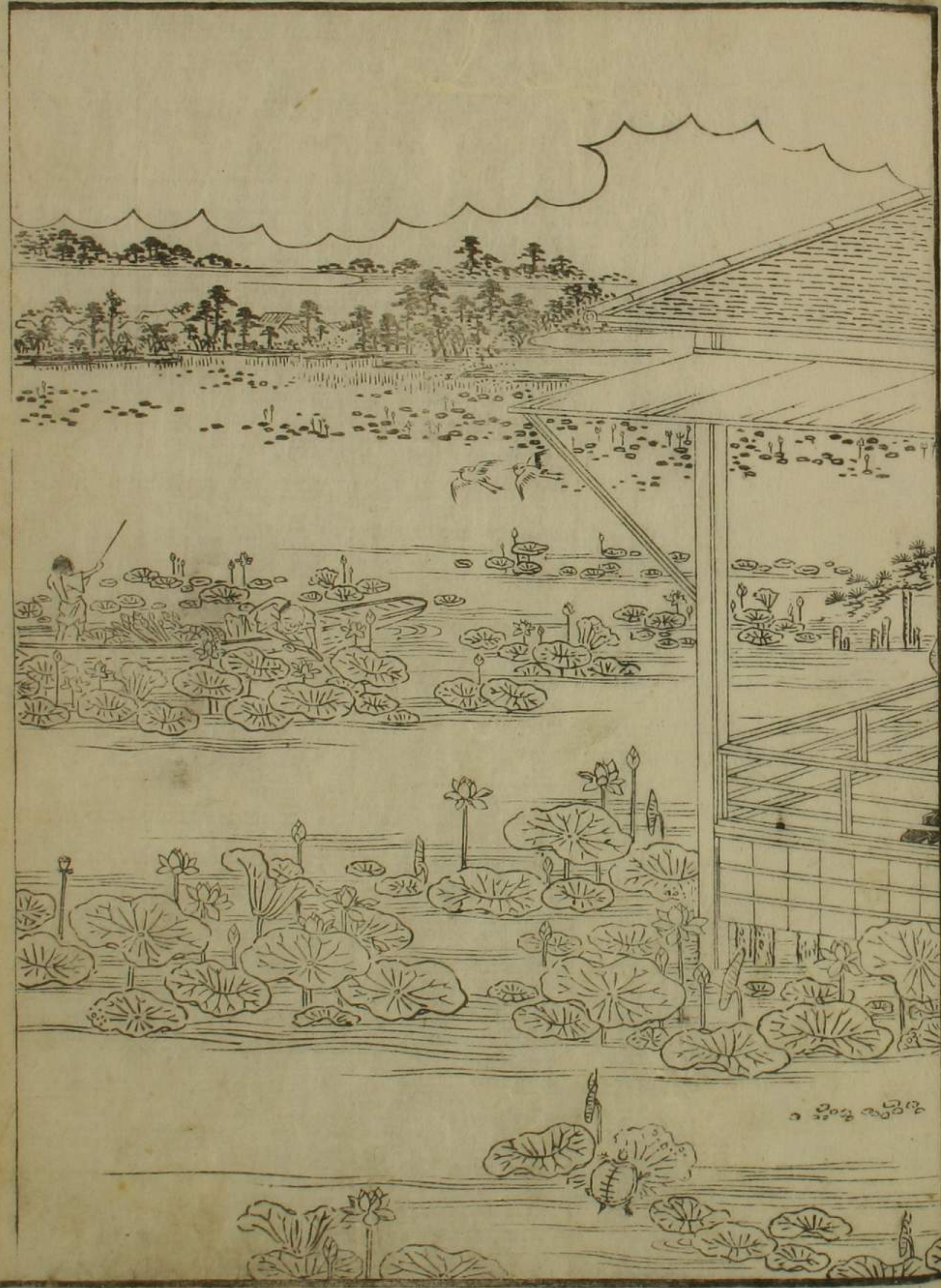
東叡山黒門前  
三橋



忍びの池  
 中島辨財天社

中島辨財天社





志のいそいけ  
不忍池  
蓮見

きんぎょのいけとて  
不忍池の府前一の  
蓮池より夏月には  
荷葉露々として水上  
又蕃行の紅白  
色をすく芳々人を  
甜夢の蓮を思する  
の葦を晨とて文  
の清観とす

奉尊辨財天と云ひ脇士多聞大黒の二天ともて慈覺大師の仇あり

社傳曰往古東叡山草創の時慈眼大師此池を江列の琵琶湖みかどら新

又中島を筑立て辨天の祠を建立せられと云云 江戶名取記云水谷信忠守

聖天宮 本社の北方小島小島勸請す此島其始無天の祠あり 舊記あり其頂もこの聖天の宮

紫銅華表 額 天龍山 細井廣澤筆

昔の離島小にて私めて往末をてを寛文の未陸より道双築て糸指の人便

わらへ己巳日の前夜を糸指群集す

東叡山寛永寺 圓頓院と號す人皇百九代 後水尾帝の御宇寛永年中

比叡山延曆寺に比せられ江城の鬼門を護るの靈區とて慈眼大師草創有

爾より己降代を一品法親王座主とて今天下才一の林刹たり

中堂 奉尊藥師如來 傳教大師の仇ありては勿夫造村石津より移せりといへり

天井の中央小盡ける龍あらひにうしろの壁の上に懸せる木の十六羅漢等の像ともて惣所永叔の筆なり

脇士 日月二大十二神將 慈覺大師の仇ありて羽列 立石より移せりといへり

脇壇 不動明王 智澄大師の仇 多摩天 定期の作

# 湯瑠窟

瑠璃殿

靈元法皇震筆

竹臺 席門のうら方右にあり昔慈覺大師入唐の時五基山の竹を根うに携へて歸朝の

額 後水尾帝震筆

# 寛元堂

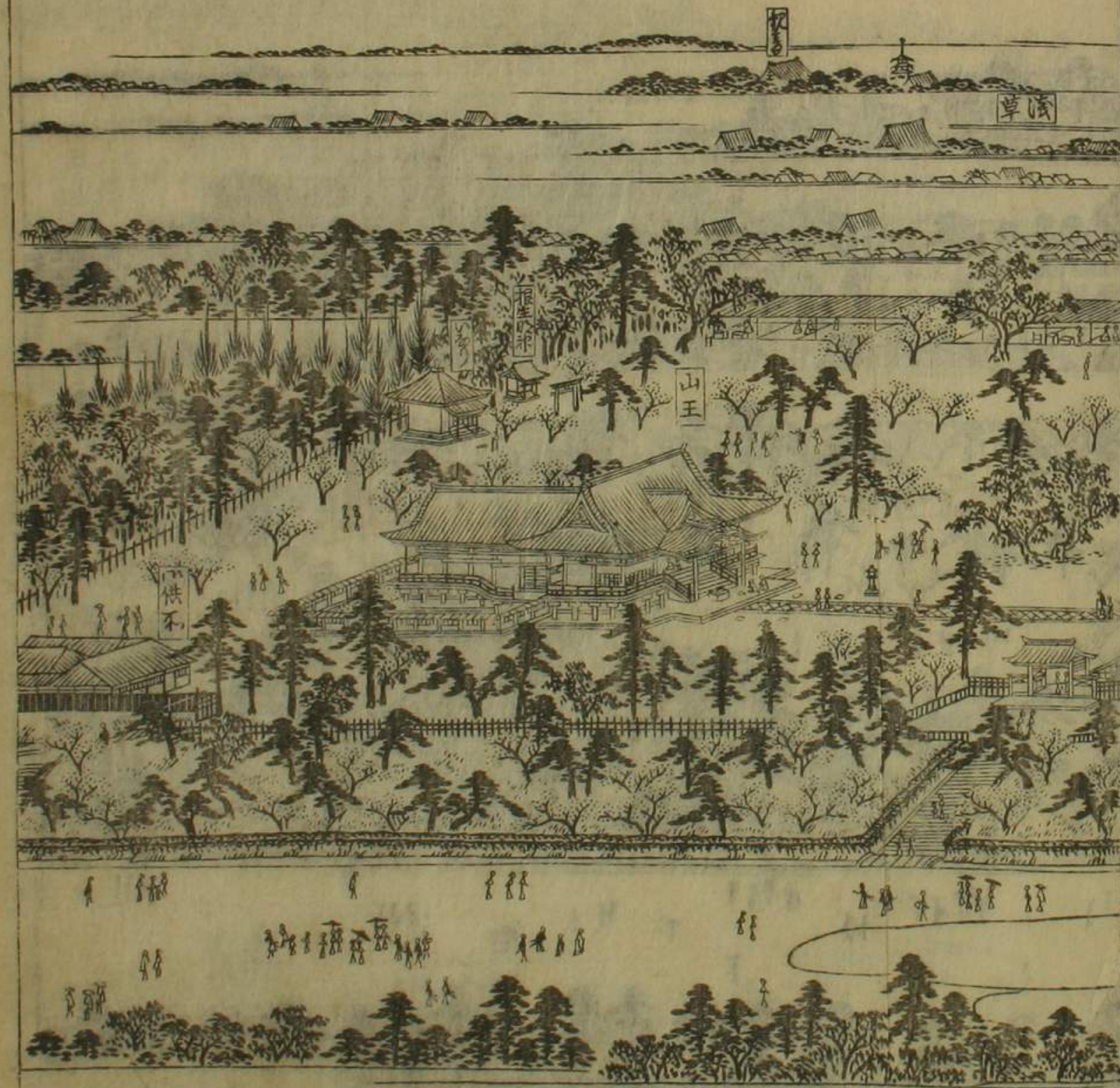
雲水塔 中堂の左の方のあり多室塔と云ひ塔の初慈眼 二十番神社 雲水塔のうしろに有

宛山慈眼大師建立 轉輪藏 中堂の前の方のあり一切徑を収む前に傳大士をさへ普賢

東廠山寛永寺  
 櫻ヶ峯  
 山王社

山内揚樹多き中  
 小も此辺と揚樹峯  
 と号しそむじ羅山  
 先生裁ふあふるはし  
 譽峯文集ふり

東廠山上陽春衣  
 東廠山下背花歸  
 回看終日酣歌處  
 風起晚來爲雪飛

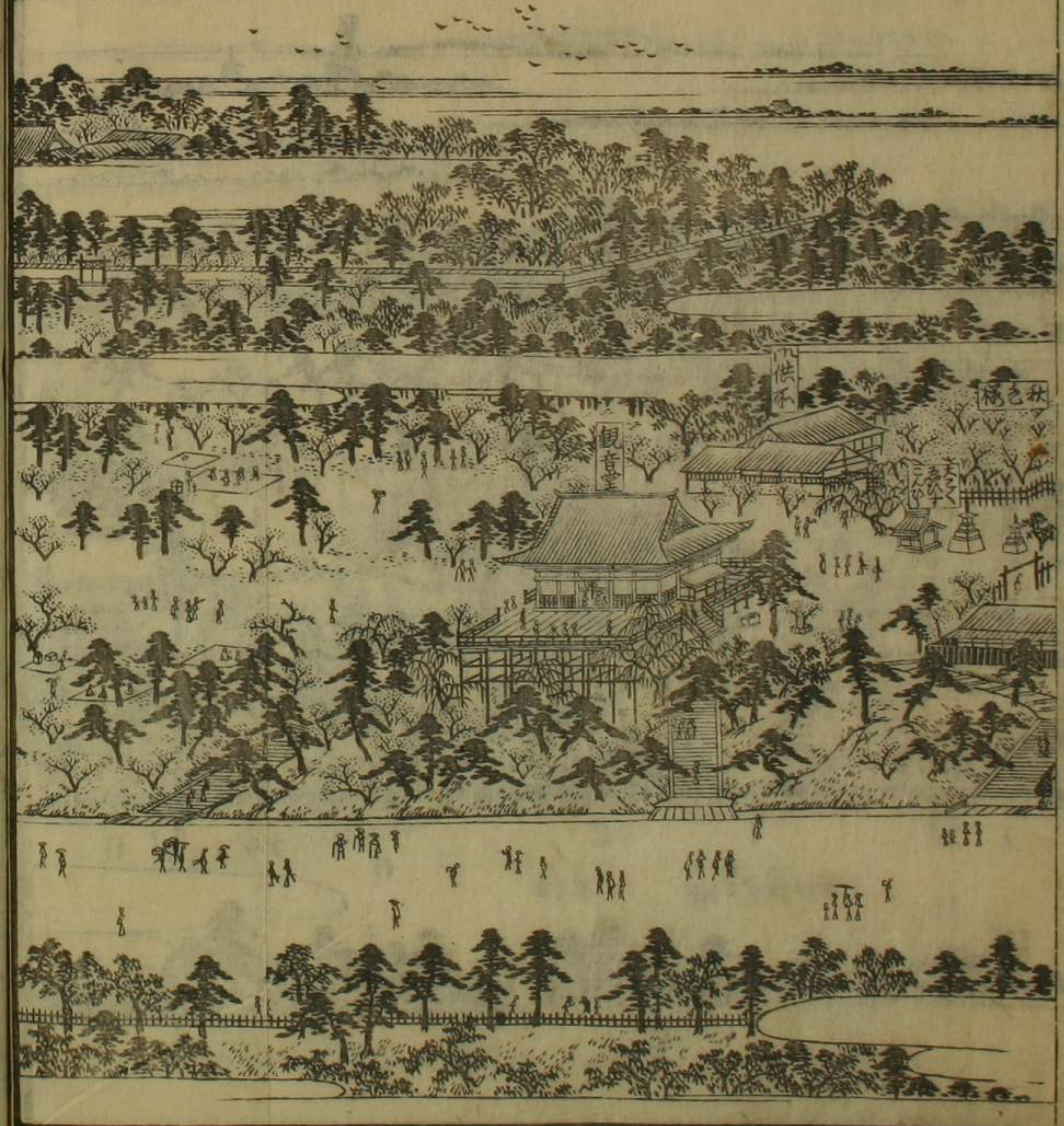


其二

清水観音堂  
秋色楊

秋及楊の清水堂の  
沖橋所持のうら  
井のわさくらあり  
花の一種として虎尾  
と格すのり是あり  
中頃江府の商戸  
行某の女秋及と  
いふの記のころ  
らよあり井戸と  
の橋のふみ海の  
跡といふ秀也  
あり

ふりう  
名つくと  
まん



木のり

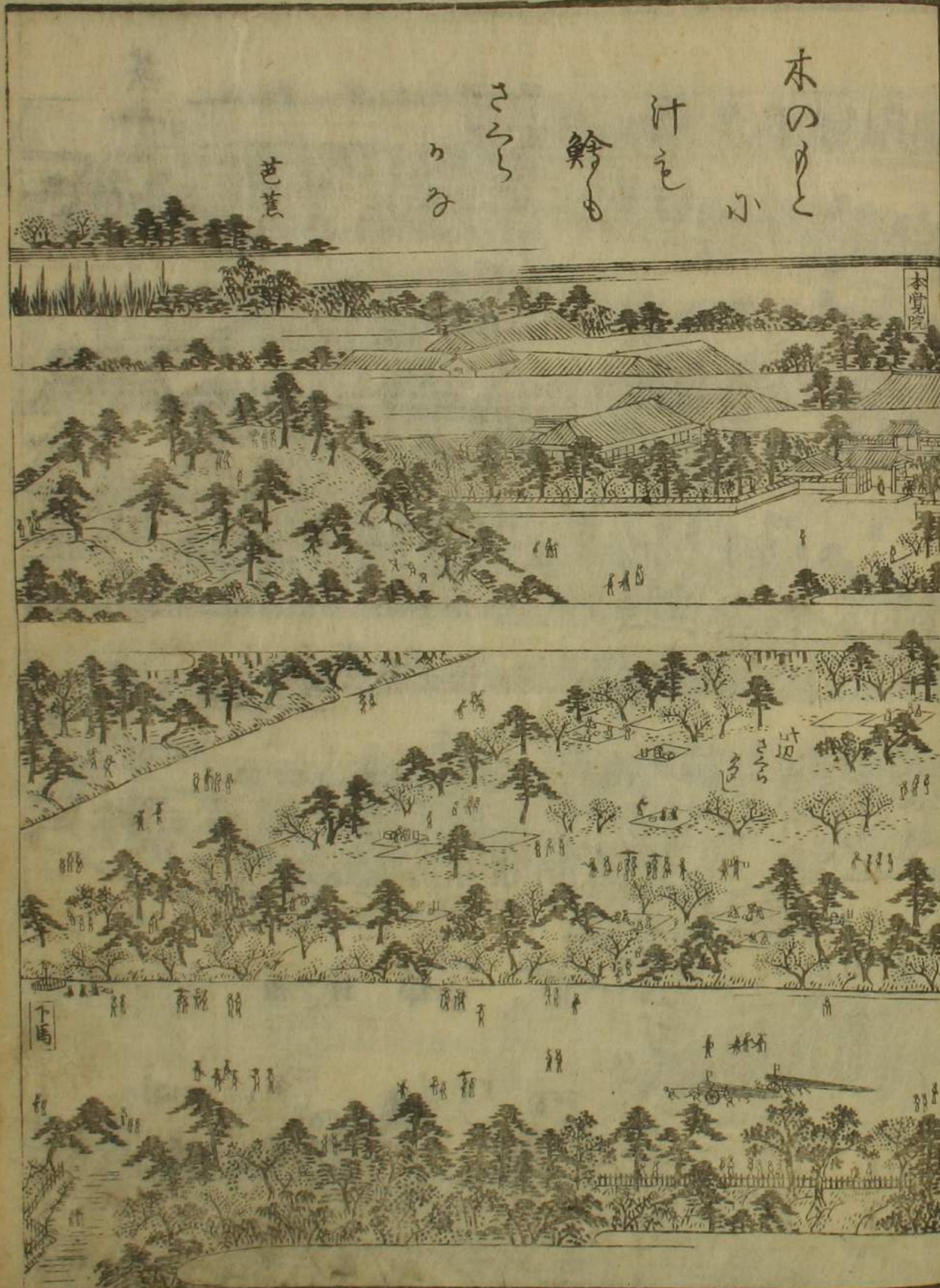
汁色

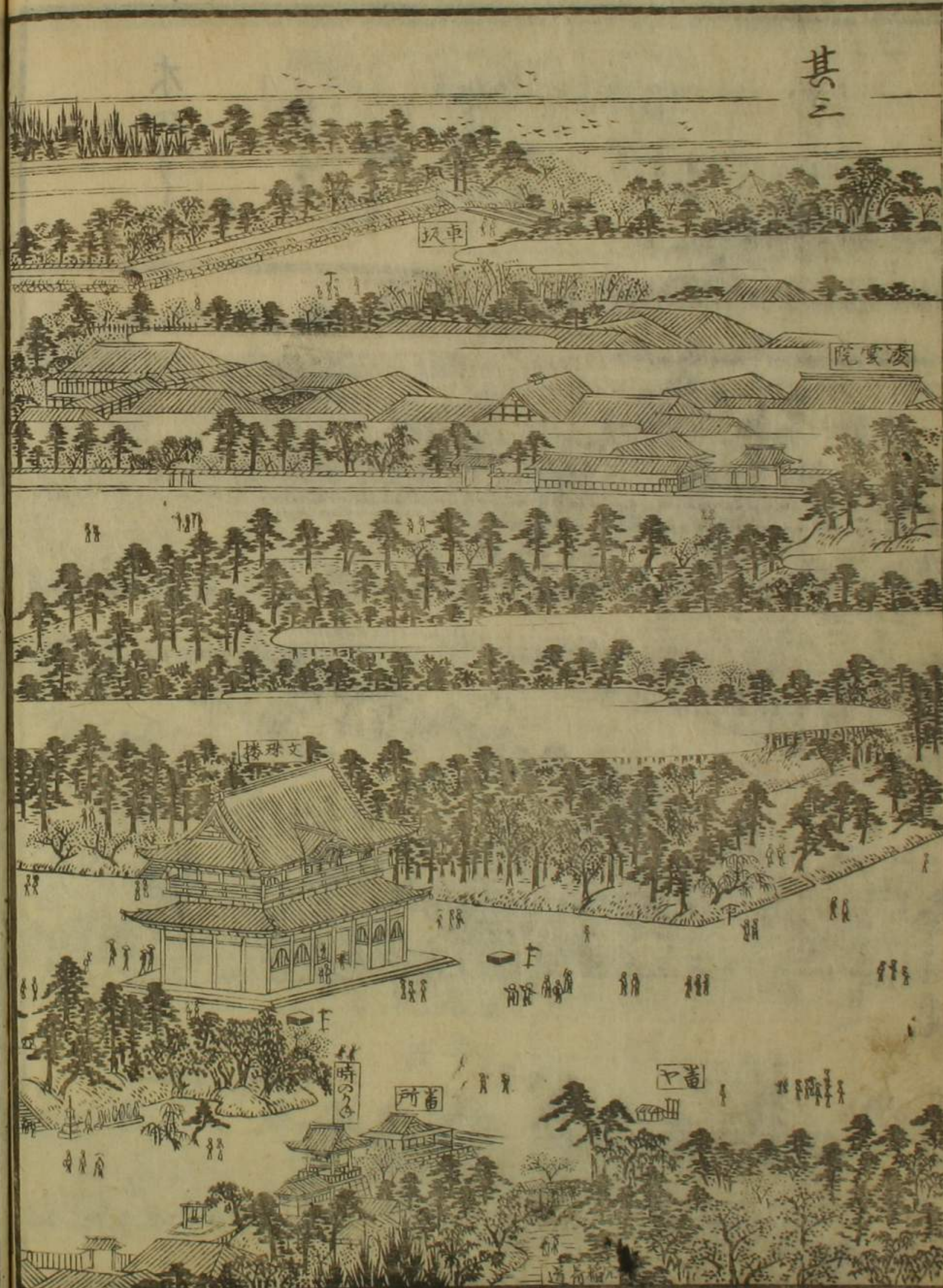
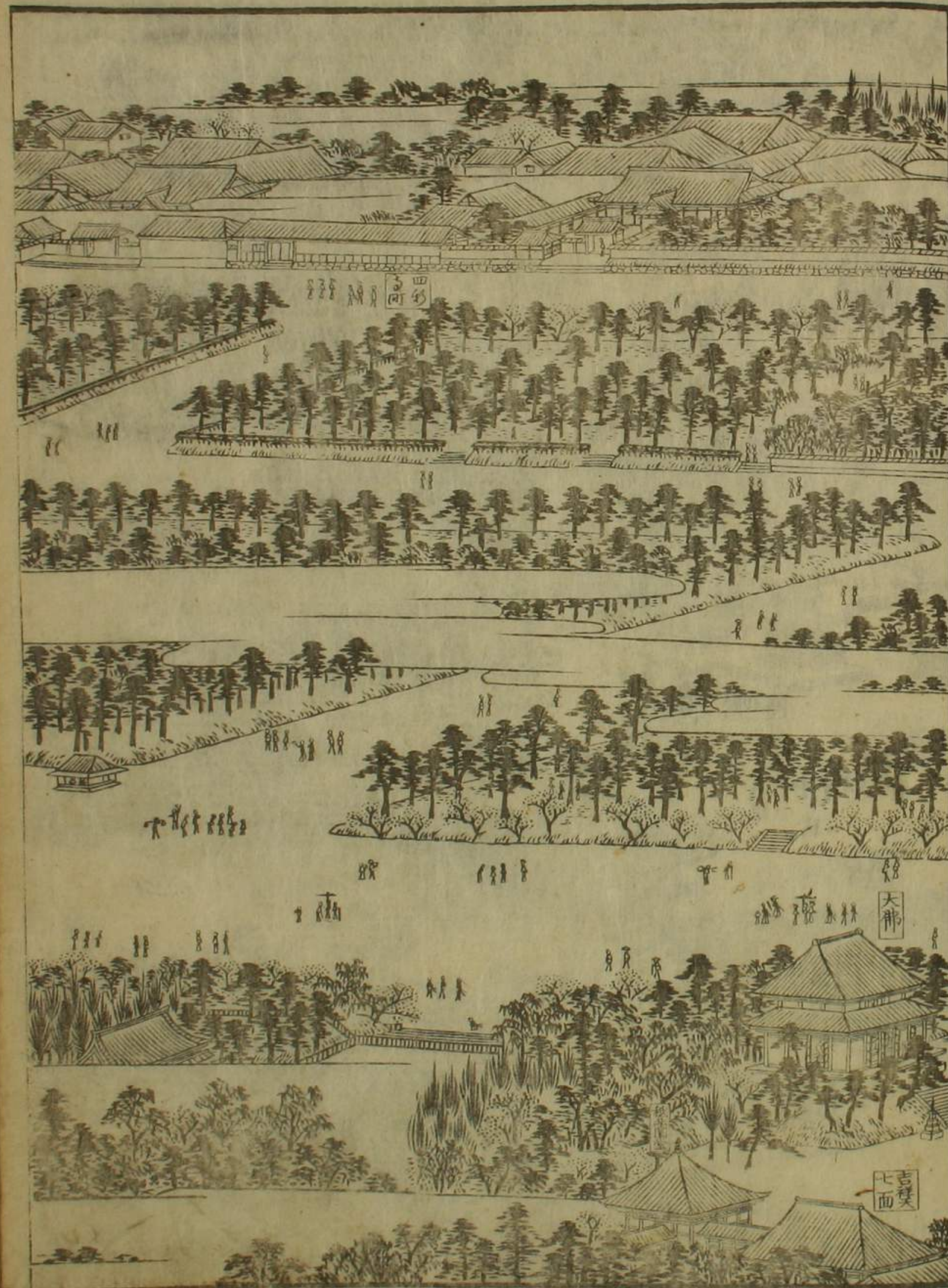
餘も

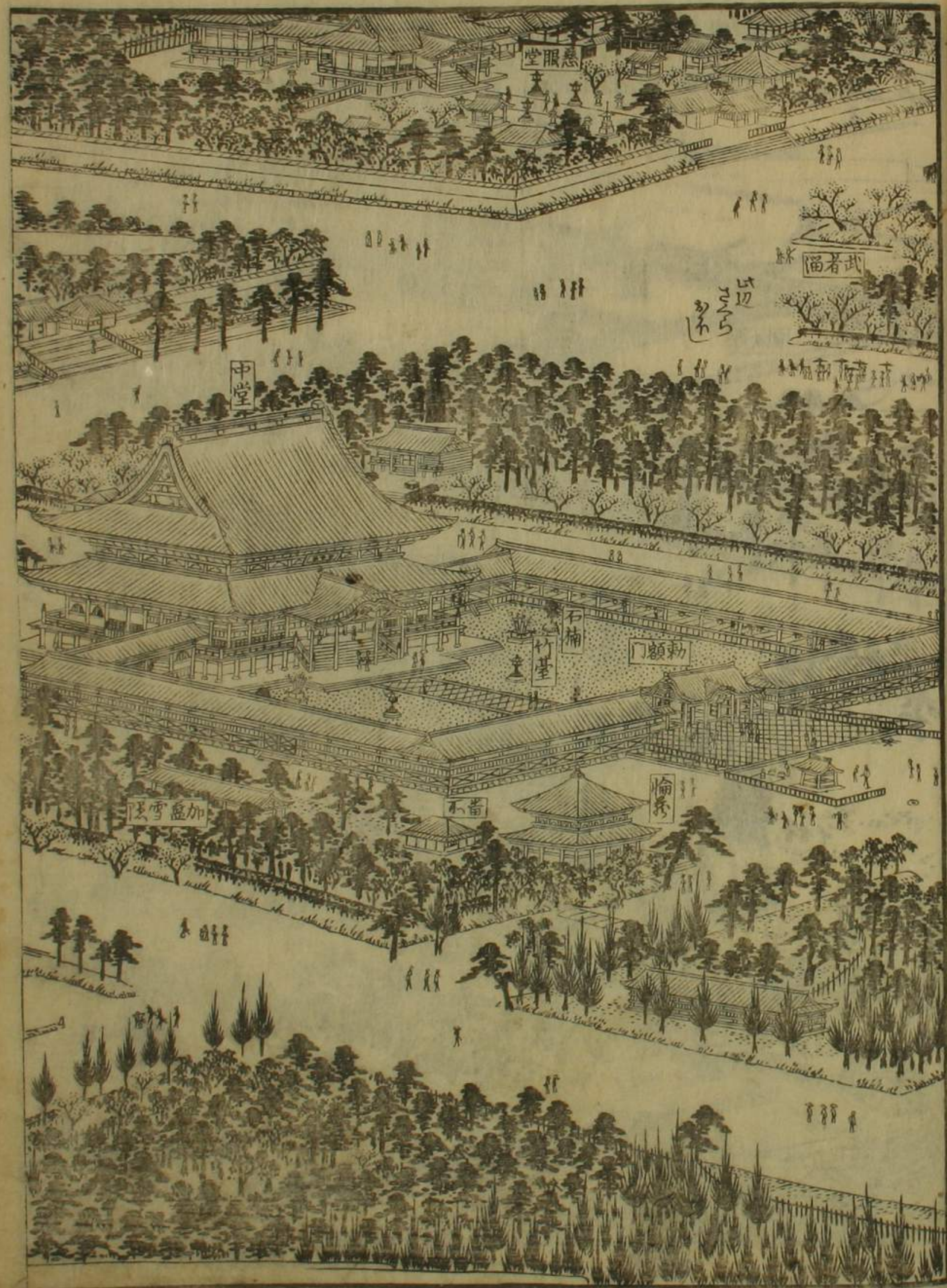
さくら

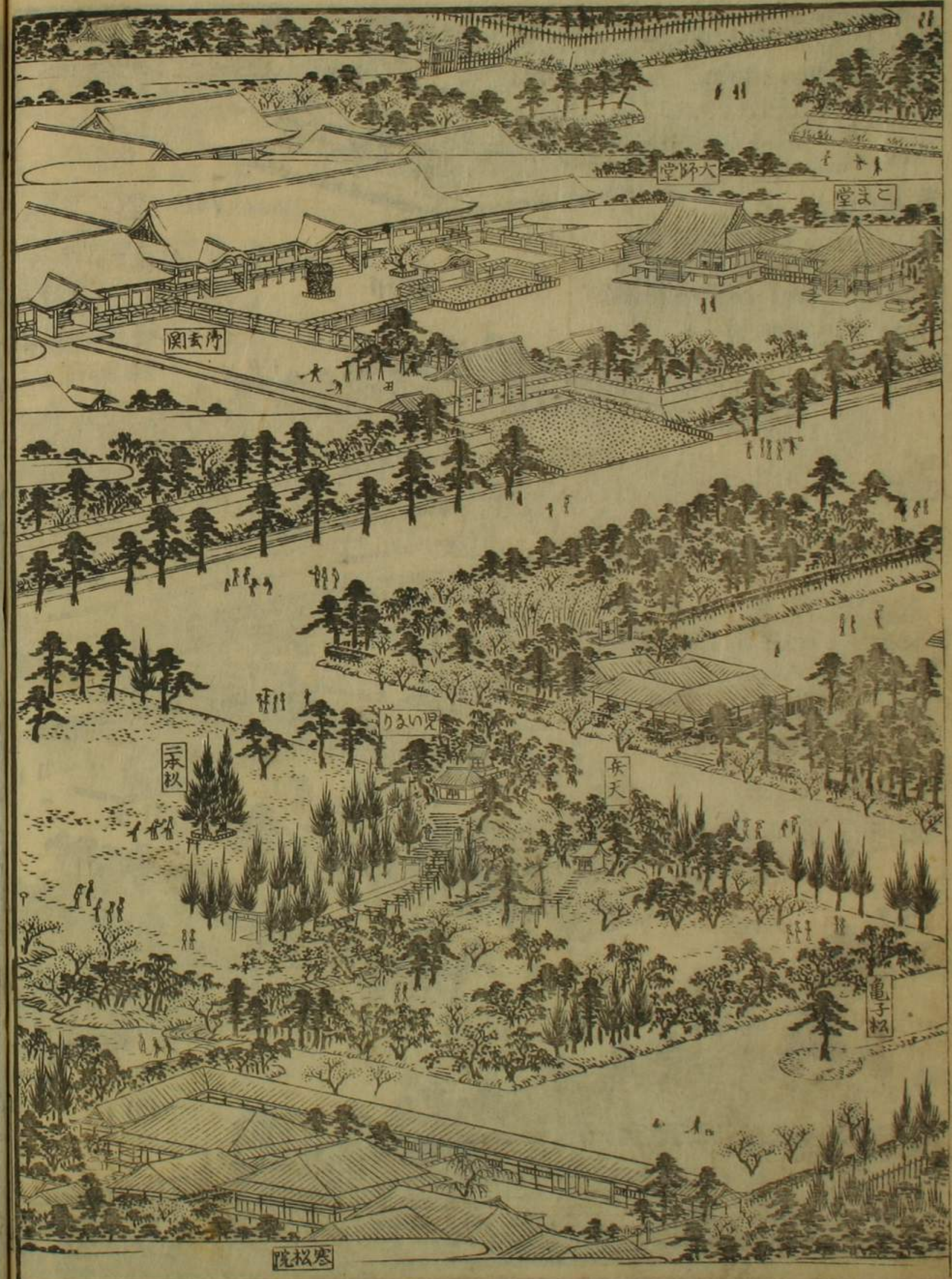
りみ

芭蕉

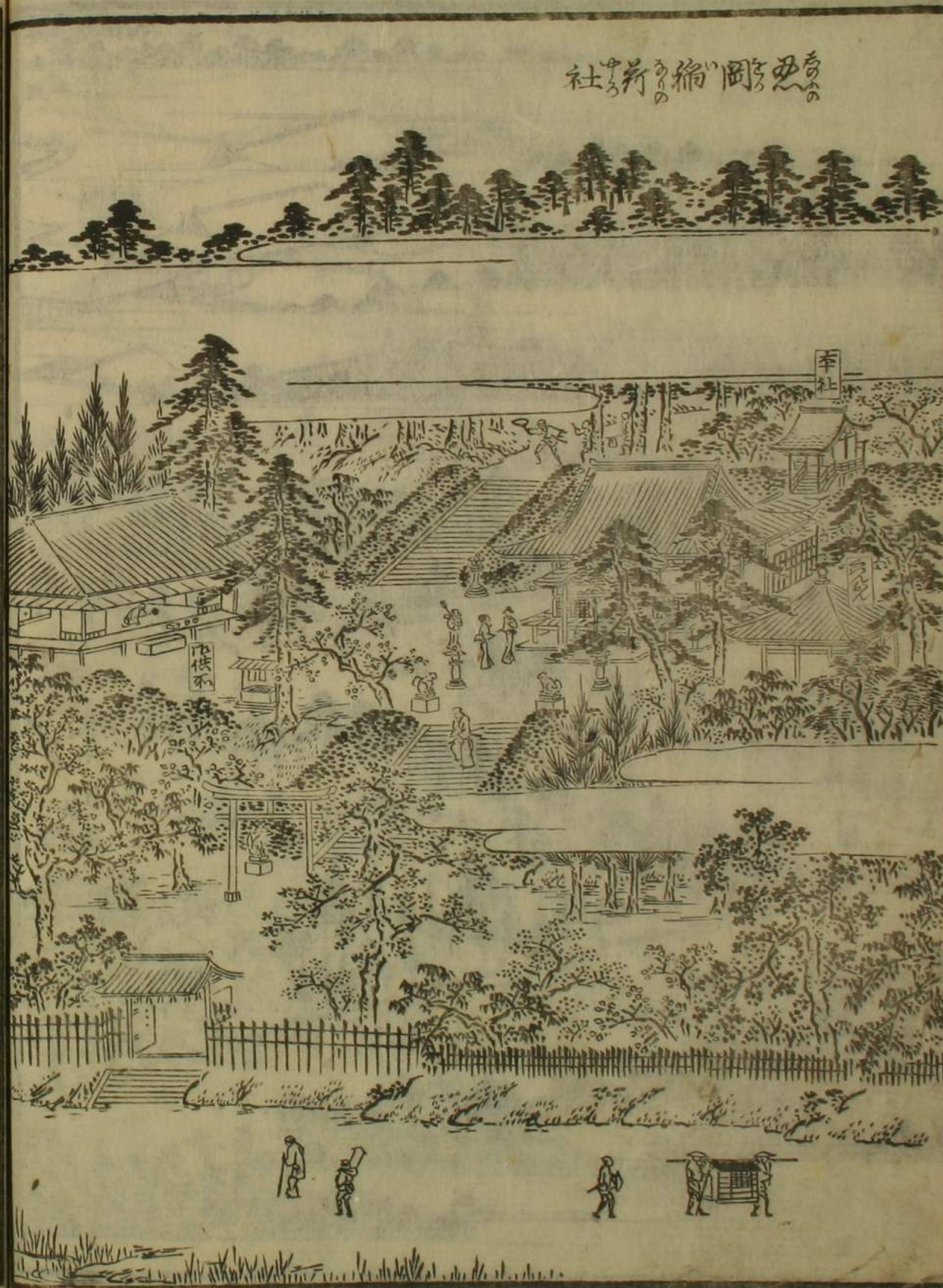








忍岡縮荷社



法華堂

中堂の前の方あり普賢菩薩と云ふ毎朝日月常行堂あり

世に法華堂と云ふは阿彌陀如来と安坐といはぬ川の堂の中阿彌陀如来の像あり

鐘樓 摩多羅神常行堂の中小現つれて曰く我故と護ると云ふ仍て圓帳はるる

東 告官相良東 江城維有山 武州東 叡山鐘銘并序

照力大神君以欲奉營 誠是靈區也 叡山大僧正天海

祖廟大成土木之功 屹焉巍然昭々如 將高虎雇梓匠

卿共繼大孝之本 舉世皆崇國悉敬 此時貴戚之群

濟々各同其志或列 建立高堂或設輪 藏加之美士林之

塔寶池奉朝清紺園 夕霽可謂盛事矣 於利勝建五層

神意風奉霜有日瓦 甍猶新如峙于空 似涌自地然今

相國公祝之寶筭新 鑄鳧鐘高架一樓 伏顧心此丹忱

保其黃之惟夫範園 之體外而中虛是 顧心之早乎

感應之曙色喉鶴應 霜永延千之也 遐齡庶幾乎

大 一 天 曙 色 喉 鶴 應 霜 永 延 千 之 也 遐 齡 庶 幾 乎





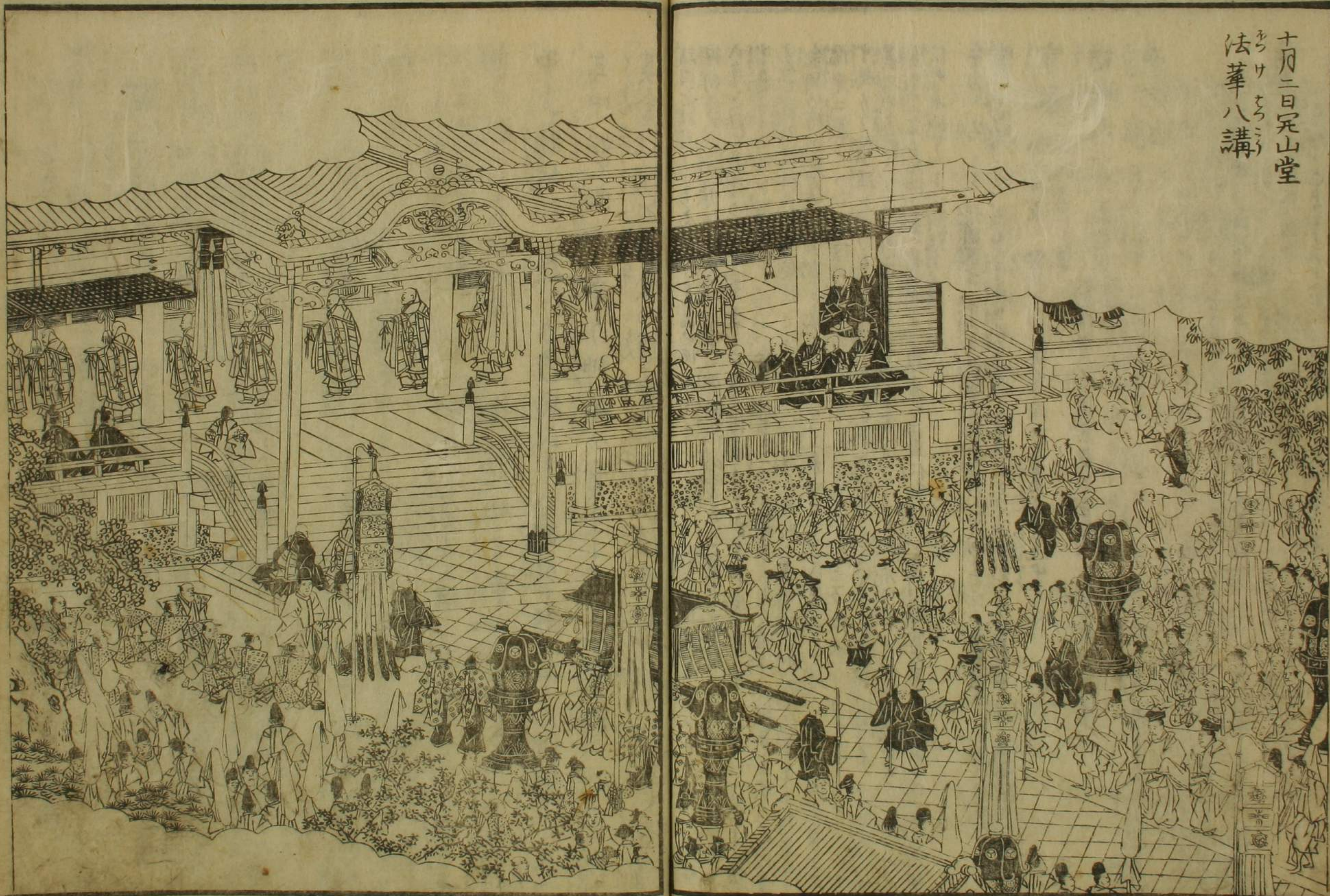
東叡山  
勸学寮圖



三聖人の古銅像を敷き屋上より極底に至るまで悉く銅製とす。包裏を其四角に石像  
 寺法石大和尚あり。二親養父母あり。又自居士の石塔婆と造立。傍に佛の石像  
 あり。同石壁の外。小道の碑を建てり。丈八黄檗を泉和尚とこれを撰む。  
 武州東叡山勸学講院了翁僧都道行碑記  
 自昔法中。大沙門播名。而德於天下。者豈苟然哉。莫  
 不皆行。以菩薩乘。願下人。成於世。無上。行善。至真。度  
 萬行。域。此。天。妙。行。實。未。易。以。論。也。若。今。東。門。方。發  
 聖之。利。行。者。其。人。欵。不自。其。脫。白。為。沙。門。便。學。至  
 講院。了。翁。僧。都。道。行。其。人。欵。不自。其。脫。白。為。沙。門。便。學。至  
 大。乘。心。行。善。薩。行。者。其。人。欵。不自。其。脫。白。為。沙。門。便。學。至  
 親。近。黃。檗。山。隱。老。人。持。戒。律。不。失。威。儀。到。處。參。露。不。嘗  
 以。己。憂。禪。法。不。大。興。於。世。而。諸。識。僧。俗。宿。露。不。嘗  
 盡。諸。佛。祖。之。大。法。乃。乞。武。陵。外。叡。山。之。僧。以。防。火。患  
 中。奉。三。聖。像。立。其。戒。師。祝。髮。及。自。雙。徑。銅。像。以。居。也  
 內。之。塔。塚。左。右。孝。如。師。藏。前。之。二。輩。有。親。僧。養。父。自。銅。像  
 藏。後。之。塔。塚。左。右。孝。如。師。藏。前。之。二。輩。有。親。僧。養。父。自。銅。像  
 本。院。僧。衆。九。百。八。十。人。藏。前。之。二。輩。有。親。僧。養。父。自。銅。像  
 示。不。朽。講。堂。三。聖。設。奉。文。庫。藏。如。來。像。而。日。講。教。本。邦。書。浩。大。像  
 別。設。講。堂。三。聖。設。奉。文。庫。藏。如。來。像。而。日。講。教。本。邦。書。浩。大。像  
 人。有。知。講。堂。三。聖。設。奉。文。庫。藏。如。來。像。而。日。講。教。本。邦。書。浩。大。像  
 前。有。丈。三。聖。設。奉。文。庫。藏。如。來。像。而。日。講。教。本。邦。書。浩。大。像  
 其。餘。院。之。聖。設。奉。文。庫。藏。如。來。像。而。日。講。教。本。邦。書。浩。大。像  
 有。餘。院。之。聖。設。奉。文。庫。藏。如。來。像。而。日。講。教。本。邦。書。浩。大。像  
 備。其。方。丈。知。講。堂。三。聖。設。奉。文。庫。藏。如。來。像。而。日。講。教。本。邦。書。浩。大。像  
 不。預。子。前。人。別。示。本。士。藏。內。中。盡。以。親。大。講。聖。萬。不。自。武。州。東。叡。山。勸。学。講。院。了。翁。僧。都。道。行。碑。記。



十月二日 兜山堂  
法華八講



四冊雜記  
笑りとさしてたれう、まされしめくさよまのひの園の露のまごりえ 堯惠

霜の後あらわれより時雨といふのひの思れねもひけ 通真唯后

二王門 明和九年の田原は焦土となりて 額 東嶽山 大明院宮の辨法親王の筆

完山堂 今礎石よりと存せり 完山堂 大徳院の影堂あり世俗慈眼堂といひ毎年十月十日

修行あり

柳完山慈眼大師諱へ天海南光坊と號す奥列會津郡高田郷の人

姓は三浦氏あり 足利法住院義澄の子とも或は蓋名徳理の末裔高田の一族ともいひ

母其美と名す事を得ず 父母嗣れく月天子は禱り其母奇花と香とを

見て振ひやうさふ九月と降誕は初より葷肉と食せず清朗

やして聰敏化は然たり十一歳にして辨法師と投じて祝髪一丈

年中始て嶽山に登り神藏の實全よまえて台教の深き傳へ

俱舎性相と園珠の尊實よまひ復南都に往て法相三論等

の教法以て成重といふに達て神道の奥儀を完足利の學校

小遊ひて孔老の書と讀道器といふ小指撈巖と學ぶ後郷に序り會津

の大寧禪師よあひて教外別傳の旨と發明し善慈和尚小巖

集と聽一百則の話頭と會得は其頃甲斐の信玄台教と教ひ

ある時諸師と請いて論義せしめ天海と講まると衆皆辞理の奇れと

感稱ふといふ是よりして名を朝野とあらふ後常列江戸崎不動院に

住す時小文祿二年夏大に早に民うれて師として請雨の法を傳

せし其時神女あつて五銚杵と授く師高田浦の深淵に臨むて

法を傳へりかゝる膏雨勿注て百穀大に登る 彼五銚杵今猶ほ 又慶長

四年武刃仙波の喜多院に住す同八年下野園長浪の宗光寺に

移り同十二年

神君 命して嶽岳の南光坊に住持せしめ再び 命して喜多院

に歸り居らしむ同十四年山門に登り法華大會を行はく時よ

座遷師大両



月毎の海日ハ西入師の  
行跡と次院遷座  
かゝりて是れを  
奉らんとして内を道  
者人群衆と道場  
溢る實に此地熱雨  
の中最も  
首なる



重職の勅許と蒙り新題者の精義嚴重はたとわめり  
上皇 後陽成院 度々召ありて法要を詔問したるは美對詳明あふよ  
依て處感儀くくは権僧正は權られ御もつう津夜燕尾等を賜ひ  
山科の昆沙門堂の門室は附せらるる又震轅を下したるは權と轉して正  
小任す同十七年

神君河越は狩したる折くは仙波に立寄せたりて殿堂を修營せり  
也莊園と寄せたり同十八年復命を兼りて日光山に居る  
神君 薨玄れ後其遺命を奉りて葬せ之能山に營元和三尊  
靈以日光山に遷坐せり奉る是往古の大職冠の例は倣ふ則山王  
習合の神は鎮たてたり勅と奉りて

東照大権現と號し奉る 大樹 台徳公 亦神君とともせたり  
優寵したるは其先元和二年大僧正に任せられ 先帝 正親所院  
二十五の御遠忌にも侍導師は請したるは后後寛永二年

大樹 命して東叡山と闢くは師として厩山とす又上皇の

二宮と 守證親王 日光山の津門主と請せせり師の侍者子は彼法に

たす其後上野國新田庄世良田山長樂寺を賜ひ

東照大権現の神祠以下の諸堂を造立あり亦同く二十年の秋

僧正微疾を示す時は 大樹 大猷公 とよひ紀乃曲相 頼宣公 駕と

屈し疾を同たり僧正遂に遺語五則を書け 大樹畫工探函は命し

たすひて其頌相と写さしむ一日唯識論と因に忽ち文殊菩薩の來

現を見る則其時至ると志り端座合掌して遷化す時は寛永二十年

十月二日あり 東國高僧傳は寛永十九年壬午十月二日化寂とあり 紫雲天花の端

あり影堂と當山ありひは日光天台の三山に建る當山慈眼堂其あり

慶安元年慈眼大師と謚號の詔勅を下したるは 以上兩大師縁起とよひ東

慈惠大師 諱ハ良源江の淺井郡の人父ハ本津氏母ハ物部氏あり  
延喜十二年壬申九月三日よ生る 父母子あきと篤く觀音よりて諱る 十二歳  
觀音九と名ほくとしなり





しめて叡山の理仙と師と同一六年は薙染す理仙入寂の後三條  
右大臣定方公恩訓律師として大師を受戒せしむ亦尊意僧正  
と拜し登壇し早く博學の名を得たり應永三年八月清涼殿に  
南北雄才の僧侶召て御八講行はせたり時昂身成佛の相と顯す  
康保三年天台の座主補せられ山勢を領する事とて二十年又  
天祿二年四月十五日林九綱戒品戒誦終數句と唱ふに至つて口より  
光明と放りといり天元四年七月大僧正轉し輦車に宣旨と下り  
後永觀三年正月三日延陀の尊號と唱へて入寂したす化壽七十  
四一條院永延元年其徳の高と仰きて謚と賜ふ  
慈惠大師影像 民部法眼筆  
慈惠大師の影像阿闍梨の君の寫さたり真影と共に七尊山ありしは元龜の  
頃屋島織田氏山門を襲れ時その折の執事福成坊の阿闍梨ははくし兩像を  
たてより香の谷と注て仰木村とて落行けり是處道とて流徒へも道  
さしと知とれちちくんに供奉す元三大師の尊像ありはとて通すへ  
ひひくれは此の大阿闍梨向秀吉公いす本侍藤吉房といり時ありし是  
いと馬より飛降り免道とて通して通してなりとてみとて兵

の難と免れたすひまより聖田の浦にいて船と湖東へりり額田井の在り時  
後山門再興ありて天正年中彼阿闍梨の公のつたり尊影は横川に遷坐る  
つり今も講堂に安置したる是れ民部法眼のつたりたてりり尊影  
ハ勢列安濃津の西來とといひしとてなり其後度々山門よりいひ  
うけひくす寛永十七年 大樹 大猷 御令嗣 御誕生のつたりたてりり  
慈眼大師遺言してたより奉山の例にうせこのまに當山院が三十日  
一たてりり大樹の守武運を守りたてりり國土豊饒と惠んとを  
一箇月執事したてりり奉とありありあり貴儀の命たてりり  
歩と運ひ祈願とて成就せすとといひし月毎の三日十八日  
あせり  
同除魔景 或時疫鬼來りて慈惠大師と悩むとす時に四融三諦と觀して  
一わんうち夜叉の形相とあらはれしつらうら瘴と把て影と  
と金丸をりり避の來る事なく疫災とをらんとまよりして後三條  
萬民藹屋の扉に至る今にこれ慈眼大師の影とて  
東鑑曰寛元五年丁未三月二日乙亥今日可摺寫  
不動並慈慧大師像之由被仰政所之間有其泐汰  
同二萬體被摺寫之今日有供養之儀導師松殿法  
像也信濃民部大夫入道行然奉行之  
權大僧正鳥井兼雅等八遊世の仙とて  
慈惠大師の尊像と毎月度抄たてりり上ハ玉辭り  
慈惠大師の尊像と毎月度抄たてりり上ハ玉辭り  
慈惠大師の尊像と毎月度抄たてりり上ハ玉辭り

といのろと多筆なるりたりぬ余老病ころほそくまふ今  
 心も持たてまつるとそ母もひつげけらふ  
 赤羽世小あくらん後のままともいゆるふいとゆれとも思ふ  
 栄雅

慈眼大師真影 狩野探幽筆

慈眼大師の真影は慈恵大師の影像と共に當山院々須菩まで一箇月ほど執筆  
 した年この十月の清平坊に遷坐あり  
 大悲藏 慈眼大師の龕のまに安坐す諸人若凶禍福とトは當と指ること  
 佛祖 統紀曰 大士 籤 天竺 籤 越 圓通 百三十 籤  
 以支 吉凶 其應 如響 相傳 是大士 化身 所述 云云

柳當山江戸第一の橋花の名勝ありて二山花はあふくと云ふか  
 台命よりて和列吉野山の地勢と摸し植させらるる故ふ花は速  
 あり遅ありて山上山下盛とらそり弥生の花蓋は都鄙の老若貴  
 とれく賤とれく日毎必社と連てこは群遊し花のそらみ尺寸の地を  
 争ふて帷幕以張延席と設く詩歌管弦ハ鶯聲必和し錦衣繡裳ハ  
 花影は映し愛改賞咏日の暮とあらん

慈雲山瑞林寺 上野清水門の外武三丁北の方あり日蓮宗よりて  
 谷中宗林寺の境内  
 あり又其林寺の  
 池とも強又と唱ふ  
 すこ此辺雲の光り  
 化は勝れそり

螢澤

草花茶と

落る

花

哉

芭蕉

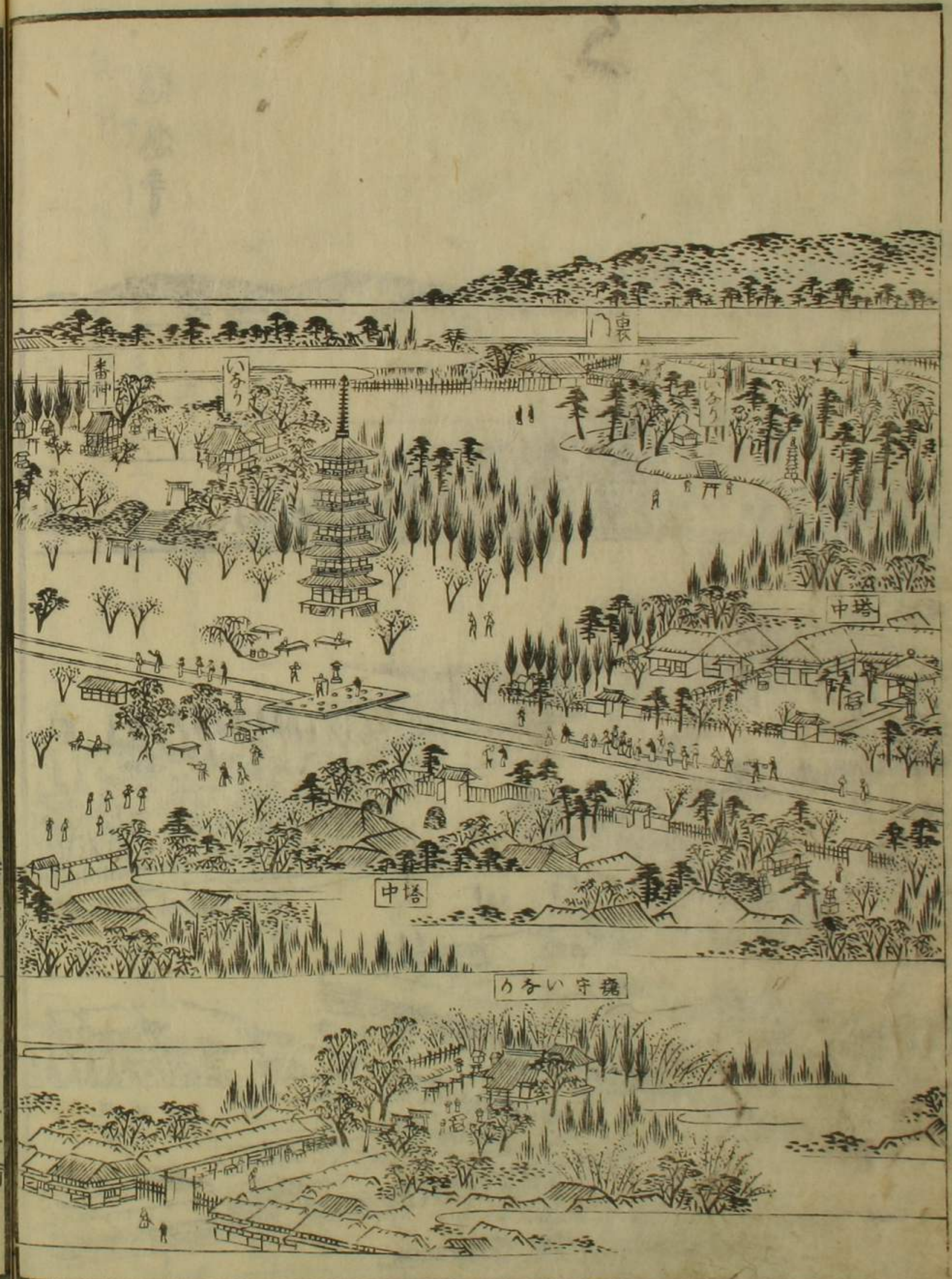
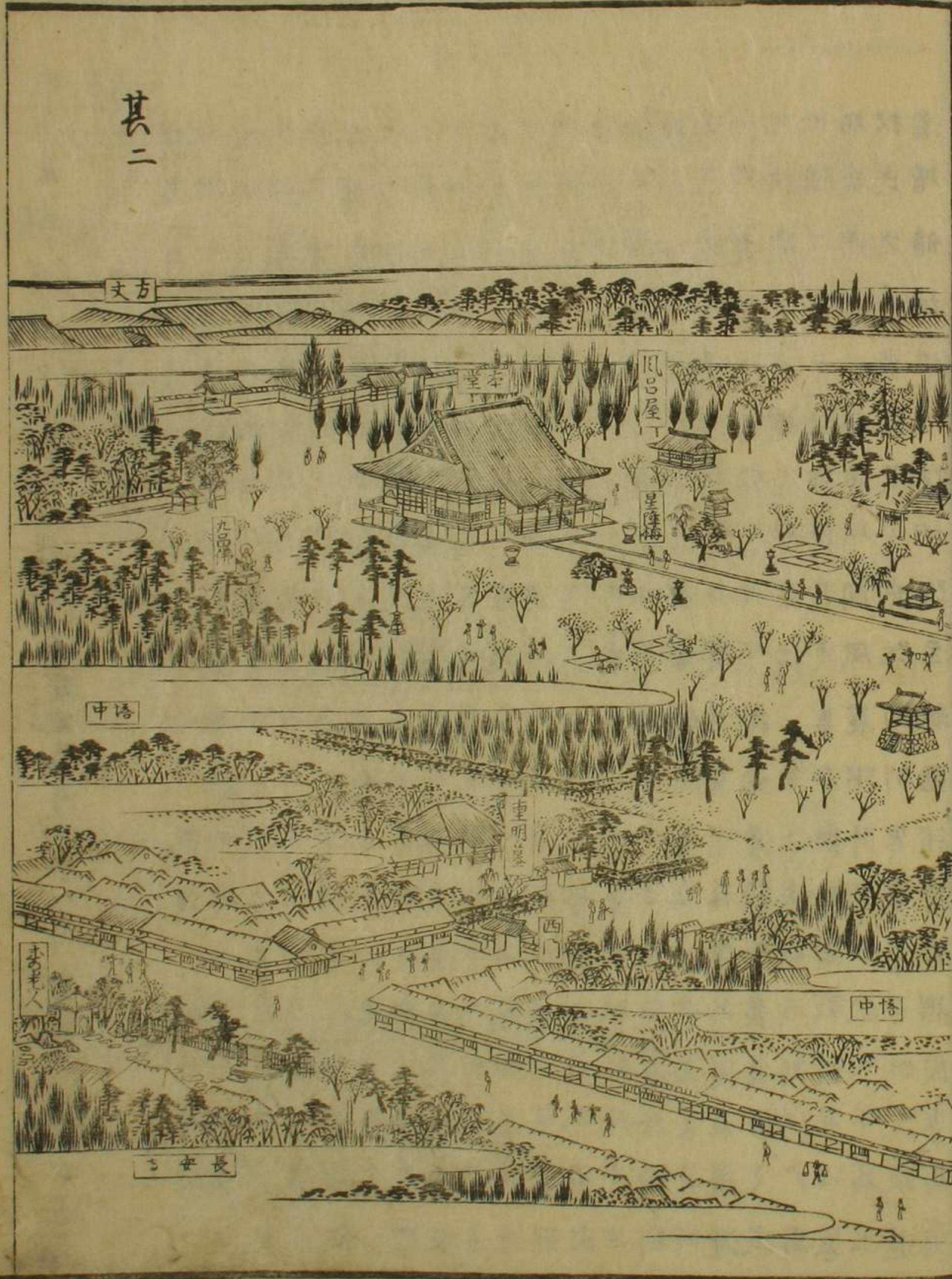


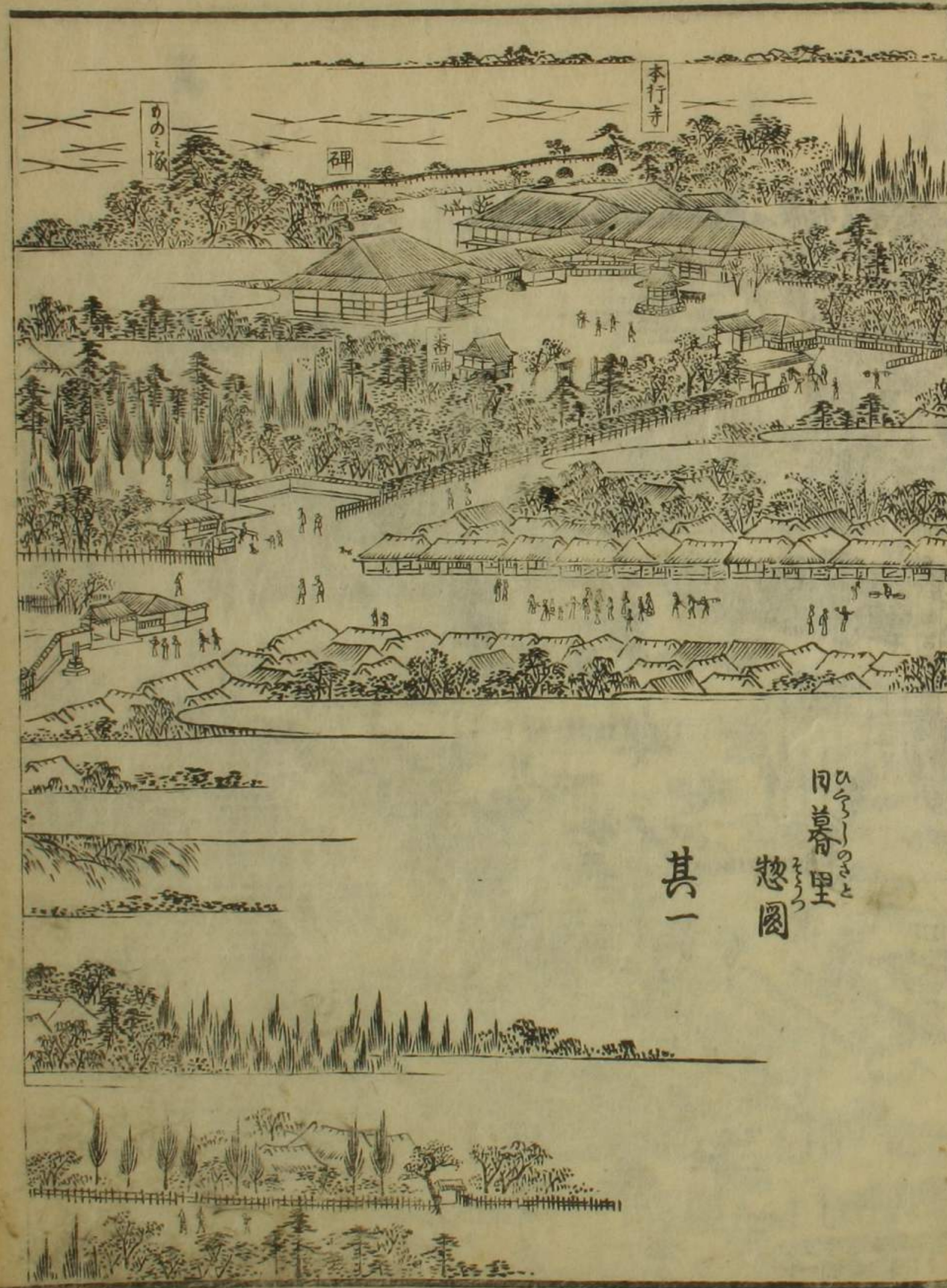


谷中  
感應寺

甲品身延山の觸頭江戸三箇寺の一あり元山ハ幸山十七世慈雲院日新大  
 天正十九年れ草創なり奉尊大六の釋迦如来ハ延宝五年れ田原不  
 ろひて今作首よりと存せり  
 長耀山感應寺 上野谷中門の外あり天台宗より奉尊ハ傳教大師  
 の作の毘沙門天と安置ハ當寺始ハ日蓮宗より宗祖上人と元山と一曰長  
 上人中興ありてゆ々浦一宗の寺院たり一曰元禄年中故ありて台宗に  
 改られ爾より後東叡山ハ属ハ其時大明院宮の清願よりりて叡山  
 横川小あり一傳教大師の作の毘沙門天の像とこみ移し奉尊と  
 せらる京師鞍馬山の毘沙門堂ハ比叡の乾み當りて佛法守護の道場を  
 れハ當寺も東叡山の乾み當と以て鞍馬寺よりせらるるとりり境内  
 榎桃の二花ありて春時燦爛をり  
 五層塔 始當寺中興日長上人建立あり一曰昭和九年の火災ハ焦土とるれり仍て  
 寛政の今再建してより一曰後せり  
 長久山奉行寺 同取小の通あり日蓮宗より元山ハ日玄上人六永

其二





本行寺

のこぼ

碑

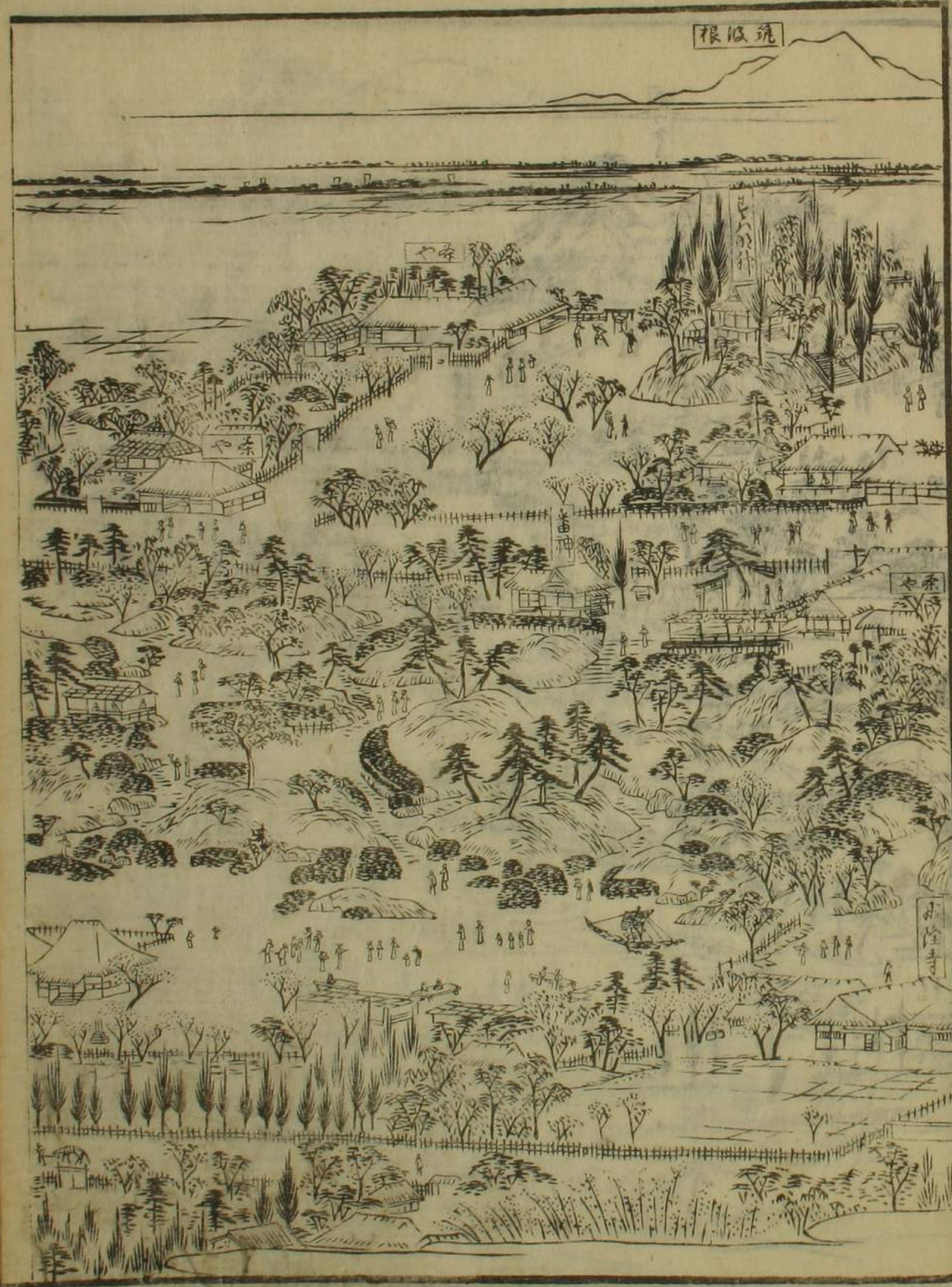
日暮里  
惣圖  
其一

灌叔勝而之二天扇孫名得其攝丘盡百丘則思奚里道  
 增氏衆鎮材世下谷父持斯祀之與爲有唯太太名曰灌  
 脩之兩之專屬戰少道資丘也所山木餘址田田道日丘  
 德有毛正委管爭恢真官蓋寺在皆黍年耳氏氏灌暮碑  
 信者二其兵領諸廓名左不與而用閔于有保無太寺文  
 以皆總封機上國有資衛幾群道其壘今之郭忌其氏本  
 懷其諸壇之松瓜大清門得屏灌號壞矣叔自遺也惠之  
 初力城險要氏裂志以大矣攝之名臺相里而也疏在  
 附也聞其長府各博永夫可遷曾矣圯傳昔人丘寺半東  
 至既風走祿中據浹亨道不於孫寺彷彿太之乃西里都  
 敵而震集二推其經四灌謂斯今舊復不田思其北人郭  
 國列帽每道黨史年其奇里懸在谷忍氏太作有思北筑  
 諸界降與戊灌送善士號也者河去既田候山太寺波  
 將寧者鄰寅贍爲兵子源替緜侯中而凶氏臺亦田有  
 皆肅不國城智脣漆生光諸室世太丘里也之曰氏道也  
 謂百絕戰武豪齒明道灌頰牒中相田其址過有也灌里  
 彼姓大利列邁道盡灌頰牒中相田其址過有也灌里  
 專院半在江有真道是相十田遷以羣焉其丘故墟二無  
 爲服爲以尸文道是相十田遷以羣焉其丘故墟二無  
 德道上寡焉武灌時列世氏則守屨故墟二無山奚丘

六年又草創八右田道灌の建立ちりといへり當寺庭中道灌  
 年候塚と稱するものあり



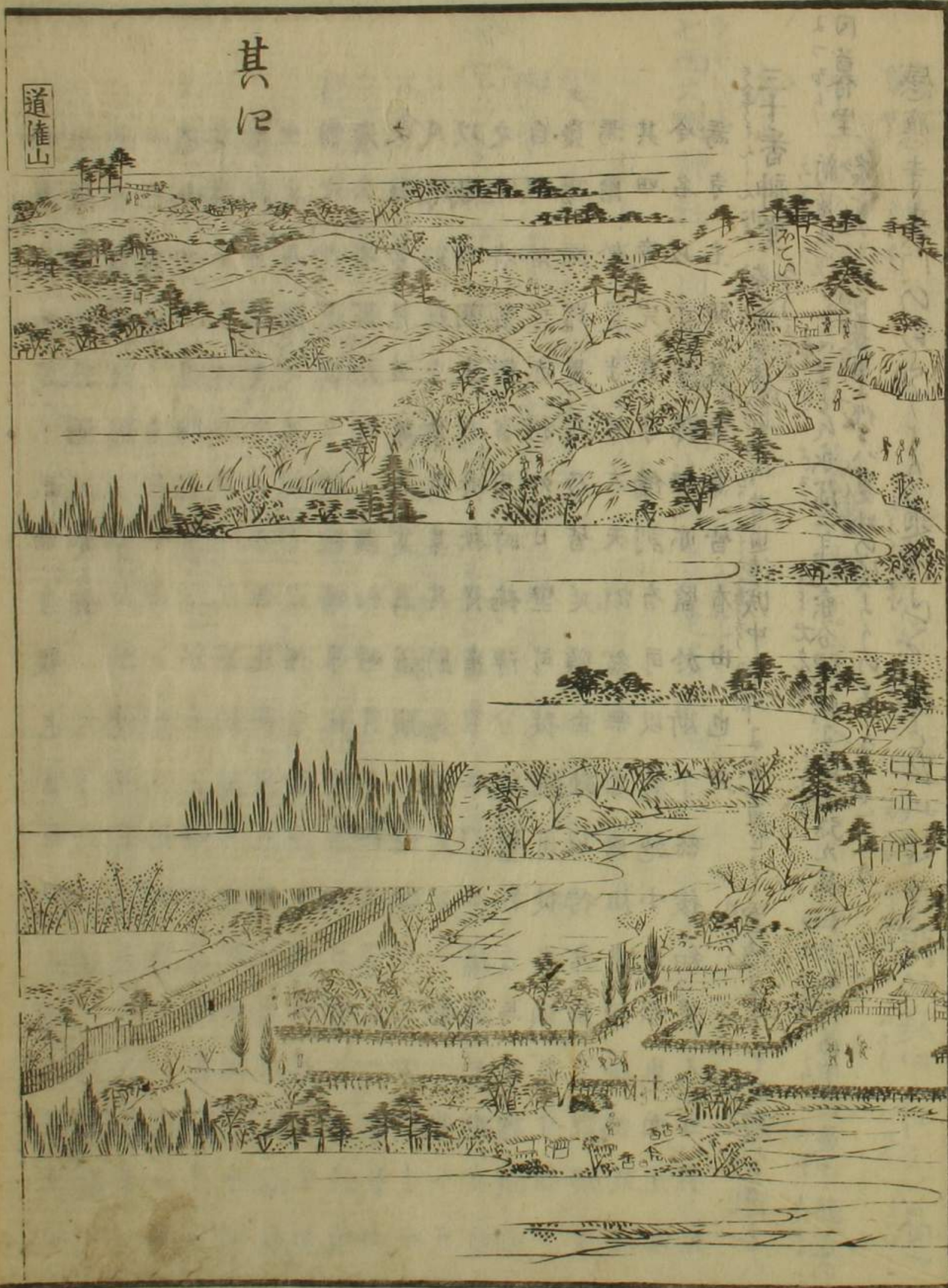
其二





其  
に

道  
権  
山



山  
光  
日



我專為暴是不戰而自服也寬正中道灌入京王一人  
采道灌所詠國風奏御所傳稱其人英武而歌可  
章也以褒揚之迄于今世僧上之與懸河大古者  
知長也宮成煥圖樹石于其屬羊叔子乎曰屋  
昔何至斯里及武人無忌其惠丘之思以子諸不  
然也吾聞之羊叔子無忘其襄陽百姓於其平生  
世也所建廟立碑歲時享祀望其孫資宗始稟茅  
灌公者異於此碑國初時顯公又四世十夫今  
之封食邑五萬石寔為斯道盛矣方顯公又四世  
以歲時朝東則春其肅有司徒勒戎馬於旗纒望  
白羽若月觀當其時禪司徒勒戎馬於旗纒望  
發爾踊躍用兵乃皆延頸企踵以待侯之舉燧者  
焉爾於是乎君大夫慨然念爾祖俸厥德將慎  
其四竟完其守備訓有司以義施小民以惠而光  
令名以碑其丘焉皆由也夫然知里人其址昭  
焉寺主碑其丘焉皆由也夫然知里人其址昭  
三十番神堂 新修又化之寺宇永保二年北条分限帳遠山弥九郎江戶知行の中に屋中新修の  
同暮里 新修又化之寺宇永保二年北条分限帳遠山弥九郎江戶知行の中に屋中新修の  
感應寺裏門のありより道灌山と界と此迎寺院の庭中奇石を置て

假山を設けに時草本の花は常に遊観み傳に枕中二月の半より酒  
亭茶店の攪り不せく貴賤被とほて春の日の永を覺ゆる此里の  
名ありあつるのあらん

七面大明神社 因不延命院といふ日蓮宗の寺に安置す冥山日長上人萬治

三年庚子正月十六日夢中必靈告を得て後勸請すとあり

補陀山養福寺 觀王院と號す因不北の方あり奉尊ハ三尊の弥陀佛冥山ハ

本食義高上人あり 傳の前の田満寺の条下也

觀音堂 西園は東扶又百善の奉尊如意輪觀音 佛工春日の作りて西園札不茅一善

十一面觀音 弘法大師の作りて坂東札不茅一善 正觀音 慈覺大師の作りて秩父札不茅一善

抑此百觀世音ハ義高上人の建立れり上人初高野山の高臺院に住職  
たりし後彼寺を退去し當此に越さ百番の札取を摸さむ事を  
企川是奉土に至りおされ兒女等の結縁の為とあり依て此地なり

小庵のありりる成願きて寺と

往古を田道權勸請あり

數千歩の地を

寄附せられしと奉尊おんく

野山より迂り奉る靈像ありと

百斛又えさうと歎きこれを後補

一斛毎に佛舍利一顆を御首み

籠竟百斛の尊像をくらひとらん

二五門の額に補陀山とあり

隆貞御の眞蹟あり

信及後訪の祭神よかれ

諏訪明神社 同取北の方諏訪の臺より

す其後右田道灌此地を江戸味の出張の若とせり

彼嘗て郭内の

鎮守とみせしと社頭今も枚の本立生茂とて上久たり

あり當社別當の眞言宗より法輪山淨光寺と号し

當社元亨の頃豊島大衛門佐建立

高崖に架して眼下み千歩の田園を見下せり

四時の眺をたらすと云事あり

中も雪のあり勝るれい世み

して雪見寺とも号し

人麻呂祠

地蔵堂

淨居山青雲禪寺

の道場たる昔堀田相別刺吏紀正亮候羽列山形在味の頃

白雲和尚

其後融君正順候香花料として北總の佐倉より

境内富士浅間宮秋葉金比羅辨財天護國稻荷等

道灌の勸請ありと

船繫松

二株あり

一が一株の往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

一が一株の往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

一が一株の往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

一が一株の往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

道灌山徳虫

文月の末を中  
小てらりり  
名よーあ虫塚  
の辺を奇絶とす  
河人吟客こい  
未だて終夜その  
清音と秋葉す  
中も憧児の言  
ハ勝てぬ  
あつはれる小  
金琵琶の振持  
うさくどつは  
ありあけつと  
有明の月と  
杉虫いも  
一真と  
いん



ほろりふふ

す

さ  
う  
も

あ  
芽

くれ

其角





